

平成30年度

# 第43回 中学校体育授業研究会



埼玉県中学校体育連盟



# 目 次

挨拶	埼玉県中学校体育連盟会長	1
1	川口市立南中学校 授業内容・指導者一覧	3
	活動の様子（写真）	4
	授業について〔ダンス（フォークダンス）、器械運動（マット運動）〕	5
	研究協議のまとめ	6
2	北本市立北本中学校 授業内容・指導者一覧	8
	活動の様子（写真）	9
	授業について〔球技（ソフトボール）、ダンス（創作ダンス）〕	10
	研究協議のまとめ	11
3	川越市立城南中学校 授業内容・指導者一覧	13
	活動の様子（写真）	14
	授業について〔球技（ソフトボール、バレーボール）〕	15
	研究協議のまとめ	17
4	滑川町立滑川中学校 授業内容・指導者一覧	19
	活動の様子（写真）	20
	授業について〔球技（ハンドボール）〕	21
	研究協議のまとめ	22
5	秩父市立影森中学校 授業内容・指導者一覧	23
	活動の様子（写真）	24
	授業について〔ダンス（現代的なリズムのダンス）〕	25
	研究協議のまとめ	26

6	熊谷市立玉井中学校 授業内容・指導者一覧	27
	活動の様子（写真）	28
	授業について〔体づくり運動〕	29
	研究協議のまとめ	30
7	本庄市立本庄南中学校 授業内容・指導者一覧	32
	活動の様子（写真）	33
	授業について〔球技（サッカー、バスケットボール）〕	34
	研究協議のまとめ	35
8	越谷市立中央中学校 授業内容・指導者一覧	37
	活動の様子（写真）	38
	授業について〔球技（バレーボール、ハンドボール）、武道（柔道）〕	39
	研究協議のまとめ	41
9	行田市立太田中学校 授業内容・指導者一覧	43
	活動の様子（写真）	44
	授業について〔武道（柔道）、ダンス（創作ダンス）〕	45
	研究協議のまとめ	46
10	さいたま市立慈恩寺中学校 授業内容・指導者一覧	48
	活動の様子（写真）	49
	授業について〔陸上競技（長距離走）〕	50
	研究協議のまとめ	51
11	学習指導案	53
	○ 球技（バスケットボール）	54

# 挨拶

埼玉県中学校体育連盟

会長 山下 誠 二

第43回目を迎えた中学校体育授業研究会が、県中学校体育連盟の中核をなす事業の一つとして、埼玉県教育委員会、さいたま市教育委員会をはじめ各教育事務所、県立総合教育センター、関係市町村教育委員会の御支援、御協力のもとに開催されましたこと、深く感謝申し上げます。また、県内各支部中学校体育連盟の先生方並びにそれぞれ研究テーマを掲げた授業を提供してくださいました県内10校の校長先生をはじめとした諸先生方に心より御礼申し上げます。

平成33年度から実施される新学習指導要領では、体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することが求められています。したがって、この中学校体育授業研究会における研究活動の成果を各学校で生かすとともに、小・中・高が連携・協力していかなければならないと考えております。

結びに、資料を作成された先生方並びに本研究会の運営に御尽力いただきました各支部中体連の先生方、そして、適切かつ丁寧な御指導をいただきました県教育局県立学校部保健体育課、各教育事務所、県立総合教育センター、さいたま市教育委員会、関係市町村教育委員会の先生方に衷心より感謝申し上げ、挨拶とさせていただきます。



# 川口市立南中学校

## 単 元 名

- ・ダンス（フォークダンス）
- ・器械運動（マット運動）

## 授 業 者

猿 橋 一 代  
高 波 優 斗  
上 野 哲 平

## 研究協議会

- ・第1分科会 〔ダンスにおける思考力・判断力・表現力の向上〕
- ・第2分科会 〔マット運動における思考力・判断力・表現力の向上〕

## 司 会 者

- ・第1分科会 杉 田 和 香 枝（新座市立第四中学校）
- ・第2分科会 原 田 拓 也（戸田市立戸田中学校）

## 指導・助言者

埼玉県教育局県立学校部保健体育課指導主事	金 杉 博 美
埼玉県教育局南部教育事務所指導主事	柳 田 勇
川口市教育局学校教育部指導課指導主事	猿 橋 武 司



# 《活動の様子》



## 川口市立南中学校

単元名	ダンス（フォークダンス）
指導者	猿橋 一代・高波 勇斗
単元目標	<p>○自主的に取り組むときに、互いの違いやよさを認め合い、自己の責任を果たし、健康・安全を確保することができるようにする。 【関心・意欲・態度】</p> <p>○踊りのイメージを見つけて仲間に伝えたり、自己やグループの課題を見つけて仲間に伝えたり、課題に応じた練習の仕方を選んでいる。 【思考・判断】</p> <p>○特徴的なステップや動きと組み方で踊ることができるようにし、発表や交流を通して音楽に合わせて踊ることができるようにする。 【技能】</p> <p>○国の風土や風習、歴史などの文化的な背景や情景を理解できるようにする。 【知識・理解】</p>
本時の目標	○曲や踊りのイメージを見つけ、感じたことを仲間に伝えている。 【思考・判断】
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 集合・整列・挨拶・健康観察</li> <li>2 2人組でのストレッチ 前時の復習</li> <li>3 本時のねらいを確認</li> <li>4 ブレインストーミングで具体的な表現方法を考える</li> <li>5 課題練習 ・練習 ・見せ合い ・具体的場面を考え、練習</li> <li>6 踊りの見せ合い 全員で円になって踊る</li> <li>7 ストレッチ</li> <li>8 学習の振り返りと次時の予告を聞く</li> <li>9 挨拶・片付け</li> </ol>

単元名	器械運動（マット運動）
指導者	上野 哲平
単元目標	<p>○器械運動に自主的に取り組むとともに、良い演技や練習方法を認め讃えようとする事、自己の責任を果たそうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。 【関心・意欲・態度】</p> <p>○自己やグループの課題に応じた運動の取り組み方を工夫したり、話し合ったり、発表したりすることができるようにする。 【思考・判断】</p> <p>○回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技、発展技を行うこと、それらを組み合わせ、構成し演技できるようにする。 【技能】</p> <p>○技の名称や行い方、体力の高め方、技の系統性などを理解できるようにする。 【知識・理解】</p>
本時の目標	○自己やグループの技能や体力に合った技や、組み合わせ方を見つけている。 【思考・判断】
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 集合・整列・挨拶・出欠確認・健康観察を行う。</li> <li>2 準備運動・ストレッチ</li> <li>3 感覚づくりの運動を行う ストレッチング・連続前転・連続後転・丸太転がり・補助倒立・既習技</li> <li>4 本時のねらいと学習内容の確認</li> <li>5 課題技の選択範囲から演技を構成する グループ内で協力し、演技構成を考え、試技を行う</li> <li>6 グループ内で簡易発表を行う</li> <li>7 整理運動</li> <li>8 学習の振り返りを行う</li> <li>9 次時の予告を行う</li> <li>10 挨拶・片付け</li> </ol>



# 第43回南部教育事務所管内（南部地区）中学校体育授業研究会

## 第1分科会

### ダンス「フォークダンス」

#### 1 授業について

- ・コミュニケーション能力の向上を図りたい。
- ・生徒の事前アンケートで、技能面をあげている生徒より、仲間との関わりを求めている生徒が多くいた。そのため、フォークダンスを通して、良好な人間関係を構築するために必要な能力を高めるための計画を立てた。
- ・外国のフォークダンスには、パートナーチェンジがあり、多くの仲間と交流することができる。フォークダンスをきっかけとし、体育の場以外でも良好な人間関係の構築、話し合いの場で役立ててほしい。
- ・「思考力・判断力・表現力」をダンスの授業で高めるには、イメージを持たせることが大切になってくる。取り扱うダンスの文化や由来、言葉の意味からイメージを出させる活動をさせた。
- ・ダンスのねらいである「心の解放」を準備体操の段階でできるように、生徒の興味関心を惹くような工夫をした。

#### 2 研究協議

「フォークダンスにおける思考力・判断力・表現力の向上」

- ・準備運動、ストレッチから、J-POPの音楽を取り入れることで生徒の関心や興味を惹くようなものがあり、工夫を感じた。
- ・生徒の挨拶、返事が生き生きとした表情で行われていた。
- ・掲示物が見やすく、分かりやすいものだった。
- ・小集団から大集団への展開が良かった。
- ・話し合いの仕方や、班で出た意見をホワイトボードに書き、可視化する等の工夫が良かった。
- ・テーマをあえて先に言わずに、踊りを見せた後にテーマを発表していく形はどうか。
- ・4人一組のグルーピングが調度良く、また男女間の仲が良い。
- ・生徒に対して、褒める・認めることを常に行い、生徒は生き生きと活動していた。
- ・ブレインストーミングの時に、全員をどのように評価しているのか。
- ・見せ合いのコメントやアドバイスをもっと活かすことができるよう、一人一人の意見を言う場があってもいいのでは。
- ・最後の円の場面で、子どもたちの意見が出ているので、一つの円にするのではなく、二重円にするなどして反省や意見をもう一度できるようにする。

#### 3 指導講評

- ・生徒たちをどう変容させていくか、成長させたいかで学習内容が変わる。
- ・ダンスの授業の良いところ、3年間の中で選択の幅が広いので、単元として提供しやすい。
- ・本日の授業は、前時までに正しいステップと踊りを教え、技能を指導した後に今回の踊りの歴史的背景を踏まえ、少しアレンジを加えた思考判断の授業にしていた。生徒たちが楽しく踊っていたところが良かった。
- ・今回の単元計画がよく考えられていた。通常は生徒に考えさせてから、試させて、正しい動きを教えることが多いが、フォークダンスでは、「正しい動きを教え、しっかり踊り込みをし、隊形変化を行わせた後で生徒に考えさせ、思いを乗せて踊らせる」という内容になっている。
- ・体育の授業の思考判断・表現は、動きの中で考えさせたい。技能を高めるためにはどうすればいいかを考え、話し合い、実際に動いて試すことが思考判断の授業である。
- ・年間指導計画の作成について、来年度の1年生が3年生になる時に新学習指導要領が完全実施となる。未実施のないよう気を付けて計画を立ててほしい。

## 第2分科会

### 器械運動「マット運動」

#### 1 授業について

- ・1年次に器械運動を履修後、3年次に選択制の授業として実施した。
- ・生徒一人一人の技能に差がある中、授業を展開した。
- ・グループの中で助け合い、話し合い、支え合いということ意識して取り組んだ。
- ・指導のポイントとしては、技の大きさ、合理的な動き方を意識させ、生徒同士に声かけを行わせた。
- ・アドバイスを伝え合い、内容を整理して課題解決をさせた。そのために付箋やタブレットを使用し、自分の姿を見ることで、課題を意識させやすくした。

#### 2 研究協議

「マット運動における思考力・判断力・表現力の向上」

- ・学習カードを使った採点が良かった。
- ・付箋の活用が良かった。
- ・技の選択肢が多かったため、少し限定して技の提示をすると良い。
- ・技の振り返りは付箋やカードだけではなく、言葉のやりとりも増やすべき。

→そのためには、付箋とタブレットを同時に使用して振り返りをしてはどうか。

- ・ねらいから技の組合せ方法について、より教員が声かけをする必要がある。
- ・組み合わせの例示を複数準備しておくといい。
- ・付箋の活用では、アドバイスだけでなく、技の名前を記入して組み合わせについて考える取組をしても良い。

### 3 指導講評

- ・授業規律が確立され、生徒との関係も良好であった。安心して授業のできる雰囲気、失敗しても大丈夫だという温かい雰囲気であった。
- ・話し合う視点を示すことで、アドバイスの仕方が変わり、活発な意見に繋がるのではないか。
- ・3年生なので、技の出来栄えについて追求できるとよい。ペア学習では、見るポイント、直接的・間接的な補助を意識させる。
- ・一生懸命に行っているが、静かな授業になってしまう場合は、教師が肯定的な言葉かけを大きな声で伝えると、周りを巻き込んで声が出てくるようになる。
- ・思考力・判断力を高める授業では、運動量が減るといことが懸念される。工夫として、技の種類を理解させ、あらかじめ技の構成を考えておいたり、テーブルを置いて場を作り、そこで話し合いやカードへの記入を行い、タブレットも見られるようにすると活動にすぐに移れる。
- ・タブレットの個数が限られている場合は、ペア学習とタブレットをローテーションするなどの工夫をする。
- ・運動のレベルが高い生徒が多いので、指先・足先まで意識し、最後の出来栄えで美しさまで指導できるとよい。
- ・器械運動の特性として、日常的ではない動きが多いので、「できる」「できない」がはっきりする種目である。そのため、1・2年生での学習の積み重ねが大事になる。練習の場の工夫をすること、的確に指導することで「できた」という成功体験を増やし、達成感を味わわせることができる。
- ・3年生では「滑らかに安定して行う」ことが技能のポイントになる。「滑らかに安定した動き」については、新学習指導要領解説に示されている。
- ・補助者による補助やアドバイスは、合理的な動きが分かる手助けとなる。
- ・本日の授業では、組み合わせとして良い例を指導者側がしっかりおさえておかないと、子どもたちが組み合わせることが難しくなってしまう。
- ・グループ活動では、技を見てもらう生徒は、技の見る場所を限定して仲間へ伝えさせることが望ましい。比較対象をもって話し合いの活動にあたると良い。
- ・学習指導要領解説に、より細かく教える内容が書かれているので確認する。
- ・技の完成のポイントをしっかり理解させ、出来栄えを評価できるようにさせられるとよい。

# 北本市立北本中学校

## 単 元 名

- ・ダンス（創作ダンス）
- ・球 技（ソフトボール）

## 授 業 者

島 田 浩  
佐 藤 良 輔

## 研究協議会

- ・第1分科会 ダンス（創作ダンス）

「運動が苦手な生徒にできる喜びを味わわせる授業の展開の工夫」

- ・第2分科会 球技（ソフトボール）

「技能向上に向けたユニバーサルデザインの効果的な活用の工夫」

## 司 会 者

- ・第1分科会 石 田 宏 子（鴻巣市立吹上北中学校）
- ・第2分科会 阿 部 直（鴻巣市立吹上中学校）

## 指導・助言者

埼玉県教育局県立学校部保健体育課指導主事

金 杉 博 美

埼玉県立総合教育センター指導主事

大 野 拓 也

埼玉県教育局南部教育事務所指導主事

柳 田 勇

北本市教育委員会学校教育課主幹兼指導主事

谷 掛 寿

# 《活動の様子》





# 北本市立北本中学校

単元名	ダンス「創作ダンス」		
指導者	島田 浩		
単元目標	○ダンスの学習に積極的に取り組むとともに、互いのよさを認め合えるようにする。 ○学習課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。 ○多様なテーマから表したいイメージが表現できるための動きを身に付けている。 ○ダンスの特性、表現の仕方、高まる体力などを理解できるようにする。	【関心・意欲・態度】 【思考・判断】 【技能】 【知識・理解】	
本時の目標	多様なテーマから思いついた動きを即興的に表現できる。		【技能】
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 集合・挨拶・出席確認・健康観察</li> <li>2 ペアストレッチ・ジョグダンス</li> <li>3 本時のねらいの確認</li> <li>4 魔法をかけよう ※ペア学習 Aがものになりきり、Bがそれを操る活動</li> <li>5 あの感動をもう一度 ※4～5人のグループ学習 スポーツをテーマに創作活動</li> <li>6 整理運動</li> <li>7 本時のまとめ</li> <li>8 挨拶・片付け</li> </ol>		

単元名	球技「ソフトボール」		
指導者	佐藤 良輔		
単元目標	○ソフトボールに積極的に取り組むとともに分担した役割を果たそうとすることや健康や安全に気を配ることができるようにする。 ○基本的な技能についての合理的な体の動かし方のポイントを理解し、自己やチームの課題にあった練習や方法を選んでいる。 ○基本的な技能を身に付け、仲間と連携した動きでゲームを展開することができるようにする。 ○ソフトボールの特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解できるようにする。	【関心・意欲・態度】 【思考・判断】 【技能】 【知識・理解】	
本時の目標	基本的なバット操作でボールを強く打つことができる		【技能】
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 集合・整列・あいさつ・健康観察</li> <li>2 準備運動・集団走</li> <li>3 本時のねらいと学習内容の確認</li> <li>4 基本となるバット操作技能の習得</li> <li>5 ティーバッティング</li> <li>6 簡易ゲーム（ボール飛ばしゲーム）</li> <li>7 本時のまとめ</li> <li>8 整理運動</li> <li>9 健康観察・次時の予告・挨拶</li> </ol>		

## 第43回 南部教育事務所管内（北部地区）中学校体育授業研究会

### 第1分科会

#### 「単元名 ダンス（創作ダンス）」

##### 1 授業について

- ・流れが途絶えないように、目標をもって授業を進めていけるよう取り組んだ。
- ・盛り上がっているときに流れを止めてしまうのは反省である。
- ・擬音を教師がベストを着用し、生徒の間を動くようにした。
- ・小発表会をやったほうが、本時の授業のまとめとなってよかったのではないかと感じた。
- ・表現が苦手な生徒に対して、動いてほしいので「魔法をかける」という設定で行った。

##### 2 研究協議

「運動が苦手な生徒にできる喜びを味わわせるための授業の展開方法」

- ・努力を要する生徒への取り組みに対して、テンションを上げることを教師自ら行っていた。雰囲気づくりができていた。教師の擬音を書いたベストの着用が良かった。
- ・特支の生徒に関しては、何をしたらよいかわからない様子でもあったが、「なんでもいいんだよ」と言う先生の言葉がけが良かった。
- ・ハイタッチをすることで人間関係を作ることができ、声も良く出ていた。握手を入れて行っている学校もある。
- ・ジョグダンスも「まね」をするということでやりやすかったのではないか。
- ・生徒たちがとても素直で、生き生きとしていた。先生が授業を作っているところが良かった
- ・学習カードのねらいが、時間ごとに設定されており、わかりやすかった。
- ・教師が教材研究することで、生徒が楽しいと感じることができるということが良くわかった。
- ・「心の解放」は恥ずかしいことではないということを伝えられていた。
- ・対極の動きをしている生徒にも認めていくということがあってもよいのではないか。
- ・安全面から考えて、クラス数が多いと狭いのではないか、ICTの利用がもっとあってもよいのではないか。

##### 3 指導・講評

- ・雰囲気がとても良かった。先生の人柄、教材・教具の工夫ができていた。英語の挨拶も良かった。
- ・教材・教具については、物を見てやることで生徒達の工夫が出てくる。
- ・「あの感動をもう一度」ではスローモーションなどを行うとよいのではないか。  
「スローモーション～繰り返し」のように
- ・主体的（見直しと目的）・対話的な（話し合いを設ける作戦タイムは動きながらでもよい）  
深い学び（できた成功経験を考えさせる）はどういうものなのか。
- ・生徒達と先生達との関係で授業が成り立っている。信頼関係が大切である。
- ・教員がこの単元で何を生徒に教えたいのか、2年生のこの時期に何を身に付けさせたいのか。
- ・教師はどの位置で見なくてはいけないのか？教師が見とれるのはどこなのかを考える

### 第2分科会

#### 「単元名 球技（ソフトボール）」

##### 1 授業について

- ・UD（ユニバーサルデザイン）は男女問わず、全生徒ができるようになるための工夫である。
- ・ソフトボールにおけるUDの具体例は、カラーラインマーカーで得点ゾーンを分けたこと、水平にバットを振ることを意識させる水平ラインボードなど、視覚化して分かりやすくした。また、新聞打ちにより音の大きさで自己のスイングの強さを分かりやすくした。
- ・授業構成としてのUDは掲示物や学習カード等により、1単位時間の流れを示して見通しを持たせ、次の取り組みを分かりやすくした。
- ・道具におけるUDは、柔らかいボールを使用することで、ボールに対する恐怖心を取り除いた。
- ・今後は「強く打つ」ということについて、どのように視覚化していくのが課題である。

##### 2 研究協議

「UDの効果的な活用について」

- ・掲示や資料提示などで視覚化し、生徒にイメージを持たせることは大切。
- ・UDを使用するだけでなく、見合う（技能）ポイントを明確化すると、教え合いが活発になる。
- ・音で自分のスイングが強いかわかるとはとても良い。
- ・柔らかいボールを使用することは、恐怖心を取り除けて良い。
- ・試合を時間制にしたことで、どんどん活動して活動量が増えていたと思う。
- ・素振り練習の時に使用した水平ラインをティーバッティングでもゲームでも対面で誰かに持たせて意識付けできると、



1時間を通してねらいに迫れると感じた。

- ・みんなでソフトボールを楽しむという観点では、男女共習の方が守備位置の工夫ができたり、アウトが取れずに試合が終わらなかつたりということがなくて良い。
- ・掲示物が必要最低限だったこともUDという点では良かったと思う。
- ・バッティングでも握り方や足の置き方が視覚化できると良い。
- ・見本として実際の映像や写真掲示があるとグループ練習でのUDとして活用できる。
- ・その他の単元では、剣道で竹刀を真直ぐ振るために、2枚の新聞紙の間に通すことや、打突部位に色をつけることなども視覚化したUDだと思う。

### 3 指導・講評

- ・できていないことや、早くできたことなど、生徒の実態に応じて計画が変わることはある。
- ・ねらいの提示について、前時の学習カードや振り返りから、本時の意欲につながるねらいを設定できると良い。
- ・教員が1時間を通して、ねらいに対する声かけをもっとできると良かった。
- ・スイングについて、耳元から水平スイングの軌道がつかない。また、学習指導要領ではフォロースルーまでがスイングであるため、水平だけでなく、全体としてのスイングを視覚的にイメージさせていったほうが良い。
- ・授業前半の練習をどのように後半につなげていくかが課題。
- ・振り返り場面で、教員から「次はどうすれば良い？」という切り返しは、次時の授業につながる振り返りになるからとても良い。
- ・全ての生徒ができるようになるUDというのは、難しい課題を優しい課題にするための工夫。
- ・UDを用意した分、それに頼りすぎて教え合いの場面がなかったことが課題。
- ・本授業は打てるようになるという技能評価であるため、打つための練習時間をしっかり確保しても良かった。
- ・「分かる」と「できる」は思考が繋げる。グループでの教え合い活動で思考を促した方が良い。
- ・小学校ではできるように思わせ、できる楽しさを味わわせる。中学校では高めたり、鍛えたりしてできる楽しさを味わわせる。UDを用意するだけでなく、それをどのように使って技能を高めていくかが大切。
- ・ティー台を利用したバッティングは小学校での学習。1、2年生の学習内容は“易しい投球”を打ち返すこと。系統性を確立し、3年間の見通しを持って学習内容を定めることが大切。
- ・思考・判断はその教材の技能をどのように高めていくのかを考えることが思考・判断であり、どの道具を使えば良いかを考えることは思考・判断ではないことは間違っていない。

# 川越市立城南中学校

単 元 名	授 業 者
・球 技 (ソフトボール)	小 暮 一 真
・球 技 (バレーボール)	岩 澤 かほり
・武 道 (剣道)	平 山 雄 一

## 研究協議会

- ・第1分科会 ソフトボール
- ・第2分科会 バレーボール
- ・第3分科会 剣 道

## 司 会 者

- ・第1分科会 吉 澤 宗 太 (富士見市立本郷中学校)
- ・第2分科会 小 林 達 博 (所沢市立山口中学校)
- ・第3分科会 有 田 剛 (狭山市立中央中学校)

## 指導・助言者

埼玉県教育局県立学校部保健体育課指導主事	金 杉 博 美
埼玉県教育局西部教育事務所指導主事	栗 原 智 靖
埼玉県立総合教育センター指導主事	大 野 拓 也
川越市教育委員会教育指導課指導主事	田 中 正 徳

# 《活動の様子》



## 川越市立城南中学校

単元名	球 技「ソフトボール」
指導者	小 暮 一 真
単元目標	<p>○チームにおける自己の役割を理解し、自ら進んで責任を果たし仲間と協力して積極的に取り組むことができるようにする。フェアプレイを心がけ、健康・安全に留意して練習やゲームに取り組めるようにする。 【関心・意欲・態度】</p> <p>○自己やチームの状況に応じた運動の取り組み方を工夫することができる。 【思考・判断】</p> <p>○基本的な技能を身につけ、仲間と連携した攻防ができるようにする。 【技能】</p> <p>○技能や戦術を生かした作戦を仲間と共有でき、効果的で安全な練習の仕方を理解できるようにする。 【知識・理解】</p>
本時の目標	・味方からの送球を受けるために走者の進む塁に動くことができる。 【技能】
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 用具の準備</li> <li>2 集合・挨拶・健康観察</li> <li>3 準備運動・補強運動</li> <li>4 慣れの運動（ベースランニング・キャッチボール・ゴロ捕球・フライ捕球）</li> <li>5 本時のねらいの確認</li> <li>6 チーム別課題練習</li> <li>7 正規の人数でのゲームを行う。</li> <li>8 用具の片付け</li> <li>9 集合・整列・健康観察</li> <li>10 本時のまとめ</li> <li>11 整理運動・挨拶</li> </ol>

単元名	球 技「バレーボール」
指導者	岩 澤 かほり
単元目標	<p>○積極的に取り組むとともに、作戦などの話し合いに参加し、健康・安全に気を配ることができるようにする。 【関心・意欲・態度】</p> <p>○自己やグループの課題に応じた練習の取り組み方を工夫することができるようにする。 【思考・判断】</p> <p>○基本的な技能を確認しながら、仲間と連携した動きでゲームができるようにする。 【技術】</p> <p>○バレーボールの特性や成り立ち、技能の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解できるようにする。 【知識・理解】</p>
本時の目標	・チームの課題を解決するための練習方法を見つけることができる。 【思考・判断】
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 集合、整列、挨拶、</li> <li>2 出席確認・健康観察</li> <li>3 準備運動（チーム毎）</li> <li>4 慣れの運動 オーバーハンドパス ・アンダーハンドパス 対人パス ・スパイク ・壁打ち</li> <li>5 本時のねらいと学習内容の確認</li> <li>6 チームの課題練習</li> <li>7 ゲームを行う</li> <li>8 整理運動</li> <li>9 学習の振り返りと次時の予告</li> <li>10 挨拶</li> <li>11 後片付け</li> </ol>

単元名	武 道「剣 道」
指導者	平 山 雄 一
単元目標	<p>○剣道に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動のしかたを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、禁じ技を用いないことなど、健康・安全に気を配ることができるようにする。 【関心・意欲・態度】</p> <p>○剣道の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組みを工夫できるようにする。 【思考・判断・知識】</p> <p>○技ができる楽しさを味わい、基本動作や基本となる技ができるようにする。 【技術】</p>
本時の目標	<p>・得意技を見つけることができる。 【関心・意欲・態度】</p>
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 集合、挨拶（座礼） 出席確認・健康観察</li> <li>2 準備運動</li> <li>3 感覚づくり運動 素振り（正面素振り・片手素振り）</li> <li>4 本時のねらいと学習内容の確認</li> <li>5 基本打ち ・面打ち ・小手打ち ・胴打ち 各4本ずつ1回</li> <li>6 得意技の練習</li> <li>7 お互いの稽古と見取り稽古を行う</li> <li>8 片付け</li> <li>9 学習の振り返りと次回予告</li> <li>10 挨拶</li> <li>11 解散</li> </ol>

## 第43回 西部教育事務所管内（入間地区） 中学校体育授業研究会

### 第1分科会

#### 球技『ソフトボール』

##### 1 授業について

- ・守備に重点を置き、ゲームの時間を多くした。
- ・「女子は3塁に進めば+1点」「女子はTバッティング」等のルール工夫や、柔らかいボールとバット等の用具工夫、グラウンドの真ん中から4方向にする等の場の工夫などを取り入れることによって、技能の向上や楽しさにつながった。

##### 2 研究協議

- ・「対話的」と「運動量」は反するイメージがあるが、何を理解させるのかを指導者側が明確にし、子供たちに伝わるようにする。
- ・アップの工夫次第で、「対話」と「運動量」の充実を図れると思う。
- ・2回終わったら、作戦タイムを設ける等の工夫があると、さらに深い学びにつながる。
- ・教材教具の工夫やルールの工夫によって「主体的な学び」につながったと思う。場の工夫によって、安全も確保できていた。

##### 3 指導評価

- ・運動量と対話の両立には、指導者の中でどこまで確保すべきなのかを事前に決めておく。また対話を通して、疑問を解決させるにはどうしたらよいかを常に考える。
- ・指導案においては、指導観が大切であり、生徒の実態をよく把握した上で、段階を意識して、授業終わりに生徒にどうなってほしいかを記述する。
- ・義務教育の最終段階なので、できるだけ正式ルールに近づけた方がよい。
- ・教師と生徒の関係が良いことで、主体的な学びにつながっていた。教師が言ったことを、生徒がまず実行できることが大切である。

### 第2分科会

#### 球技『バレーボール』

##### 1 授業について

- ・試合でうまくいかなかった時の声かけが課題である。
- ・他のポジションをローテーションできるような指示が足りなかった。
- ・授業の振り返りでは、班長たちがよくできていた。

##### 2 研究協議

- ・単元を通して、何を学ばせたいのかが大切である。3年間を見通した計画をしていく。
- ・ホワイトボードの使い方、タブレット等活用、掲示物等、教材教具の工夫が良かった。
- ・掲示物では、精神面での掲示が多かった。もう少し技術面の掲示があっても良かった。
- ・ラリーを続けるために、どうしても経験者が中心になってしまい、未経験者（苦手な生徒）がボールに触れる時間が少なくなってしまう。経験者をどう生かしていくかを考えていく。

##### 3 指導講評

- ・学習規律が確立されていて、雰囲気良かった。
- ・ねらいとまとめが一体化していた。振り返りを大切にすると、思考が深まる。
- ・チームゲームでの3つの視点は、①戦術的な気づき②プレーのイメージが共有できている③役割行動ができる、この3つができると達成感がある。
- ・経験者ではない生徒が、なかなか関われなかったように感じた。後ろの3人が必ずレシーブをする等役割を決めておくと、改善されていく。
- ・アドバイスができる生徒はたくさんいる。良いアドバイザーを育てたい。
- ・小学校6年間の学びを活用し、連携させたい。また3年間の学びに系統性を持っていく。

### 第3分科会

#### 武道『剣道』

##### 1 授業について

- ・生徒同士の間で情報交換ができていた。
- ・活動時のポイントを指定したが位置がずれてしまい、グループ間が近く危険になってしまった。
- ・剣道部の生徒2名はアドバイザーとして活躍した。教師はあえて見届けた。



## 2 研究協議

- ・剣道部を見本等でもっと活用したい。また、経験者以外の上手な生徒をミニティーチャーにするとさらによい。
- ・面をつけていると会話は聞き取りにくいので、チェック表を活用するともっと視覚的によい。
- ・試合をみる機会を増やした方がよい。
- ・剣道における「対話的」は少し難しい感じはあるが、アドバイスカードをうまく活用できていた。
- ・「得意技」とは何をもって得意技なのか、をもう少し明確にしたい。

## 3 指導講評

- ・1、2年でどれだけのことを身につけてきたかで、3年の授業展開が変わってくる。
- ・人数が多いときほど、「足さばき」を身につけるチャンスである。そのことが3年時で生かされ、残心の大切さがわかってくる。
- ・体育は「運動量」が大切である。
- ・やさられてやるのではなく、好きになることが大切である。
- ・生徒が自分たちで考えながらやれる授業が1番である。そのためには、事前に知識や基本技能を身につけさせることも必要である。
- ・授業で大切なのは、「生徒にどこまで身につけさせたいか。」これに合わせて計画を立てていく。
- ・「主体的、対話的で深い学び」とは、新しいことをやるのではなく、今までの授業を振り返り改善していくことである。

# 滑川町立滑川中学校

単 元 名

球 技 (ハンドボール)

授 業 者

後 藤 円

笠 原 祐 介

研究協議会

○主体的・対話的で深い学びの授業の展開に向けて、生徒の思考力を高める授業展開

司 会 者

齋 藤 晋 也 (小川町立櫛台中学校)

記 録 者

沼 英 恵 (鳩山町立鳩山中学校)

指導・助言者

埼玉県教育局県立学校部保健体育課指導主事

金 杉 博 美

埼玉県教育局西部教育事務所指導主事

栗 原 智 靖

埼玉県立総合教育センター指導主事

大 野 拓 也

# 《活動の様子》

**今日の目標**  
自分たちで立てた作戦で  
攻防を展開しよう

**今日の流れ**

- ① アップ
- ② 作戦立て
- ③ ハーフコート6対6
- ④ ぶり返り

(前日3分)  
へ攻へ へ守へ

- ① 1班 vs 2班
- ② 1班 vs 3班
- ③ 2班 vs 3班
- ④ 4班 vs 5班
- ⑤ 作戦立て
- ⑥ 4班 vs 5班

**攻撃のパターン**

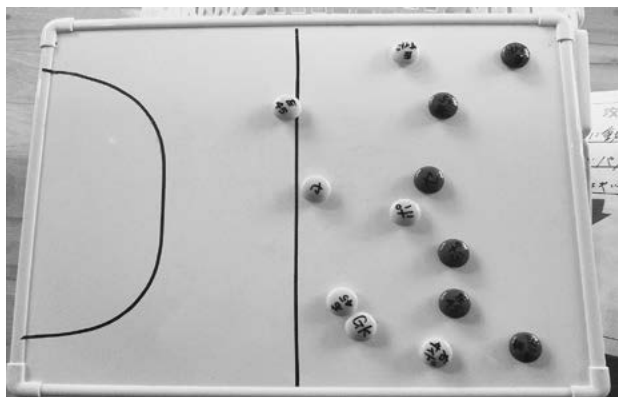
- ① きっかけ
- ② 突破
- ③ 展開
- ④ シュート

**守備のパターン**

- ① DFの形
- ② 相手のミスをどうやって誘うか
- ③ GKとの連携
- ④ 速攻

**ハンドボールの授業計画と授業のねらい**

時間	主な学習内容	授業のねらい
1	オリエンテーション	ハンドボールの特性を学び、授業の見直しをもう
2	パス練習 シュート練習	安定したボールコントロールをしよう
3	一次速攻(2メン、3メン) DFをつけた一次速攻 ホールコート2対1、3対2	空いている空間、ボールを持って1対1の動きを工夫して攻撃しよう
4	ルールの確認 ゲーム①	フェアプレイを守り、ゲームをしよう
5	攻撃と守備練習(ハーフコート3対2、3対3) ゲーム①	ハンドボールの戦い方を学ぼう
6	自分のチームの課題を考えて練習 ゲーム①	チームの課題を克服できるように練習をしよう
7	自分のチームの課題を考えて練習 ゲーム①	仲間の良いプレーや課題を見つけ、教え合おう
8	課題解決練習 ゲーム②	素早い攻守の切り替えを意識しながらゲームをしよう
9	課題解決練習 ゲーム②	自分たちで立てた作戦で攻防を展開しよう
10	課題解決練習 ゲーム②	チームの長所を生かした展開で試合を楽しもう
11	課題解決練習 ゲーム②	相手チームの特徴を考えて作戦を立てよう
12	課題解決練習 ゲーム②	学習したことを生かして試合を楽しもう



攻撃	守備
① 空いたスペースを利用する	6-0 ①-5 2-4 3-3 マンツーマン
② リスを多く回す	自分の範囲は必ず守る。
③ かわりこびり、味方をも助ける	0マンツーマン
振り返り 次の試合に向けて	振り返り 次の試合に向けて



## 滑川町立滑川中学校

単元名	球 技 (ハンドボール)
指導者	後 藤 円・笠 原 祐 介
単元目標	<p>(1) 球技に積極的に取り組むとともに、フェアプレイを大切に、作戦などについて、話合いに貢献しようとする事や学習に自主的に取り組むことができるようにする。 【関心・意欲・態度】</p> <p>(2) 攻防など自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫できるようにする。 【思考・判断】</p> <p>(3) ゲームを展開するための作戦に応じた技能や仲間と連携した動きを身に付けられるようにする。 【技能】</p> <p>(4) 技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法、試合の行い方を理解できるようにする。 【知識・理解】</p>
本時の目標	<p>○自分たちで立てた作戦で攻防を展開しよう○自分たちで立てた作戦で攻防を展開しよう</p> <p style="text-align: right;">【思考・判断】</p>
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 集合、あいさつ、健康観察</li> <li>2 準備運動、補強運動、パス練習</li> <li>3 本時のねらいと学習活動の確認</li> <li>4 作戦を立てる</li> <li>5 ゲーム② <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲームの進め方、フリースローとなる反則は正規のルールを採用。</li> <li>・身体接触は認める。反則行為にならないようスポーツマンシップを守る。</li> </ul> </li> <li>6 整理運動</li> <li>7 学習の振り返り</li> <li>8 次時の予告</li> <li>9 挨拶、片付け</li> </ol>

## 第43回 西部教育事務所管内（比企地区）中学校体育授業研究会

### 「球技」（ハンドボール）

#### 1 授業について

- ・学習規律を徹底させ、生徒の主体性を育てるよう指導を行っていた。
- ・ハンドボールは2年次で初めて取り組む。3年のハンドボールが始まる前にアンケートをとった結果、①ゲームをした  
い②攻撃の戦術を知りたい③守備の戦術を知りたい等があがっていた。
- ・雨天のため、体育館での実施となったが、よく考えて動いていた。
- ・運動量が多く、たくさん汗をかき体力向上につながる達成感のある授業であった。
- ・話し合いが活発化していて、ゲーム内の声かけも積極的に行っていた。課題だけでなく、良い点を見つけていた。自チ  
ームだけでなく、他チームの動きについても話し合っていた。戦術を理解し、用語もよく覚えていた。
- ・ハーフコートで何度も練習を行っていた。作戦を失敗するごとに、また新たな作戦を練っていた。とくに、攻め方の作  
戦が主体的に考えられていた。
- ・シュート練習で、コースを選択して打っていた。ゴール数が少なかったため、ゴールキーパーを配置するなど、生徒が  
混み合わない工夫が必要であった。
- ・女子が試合時に固まってしまう課題に対して、教員のアドバイス後は、スペースを広く使っていた。
- ・肢体不自由の生徒をゲームに参加させるため、チームで考え、シュートが打てる場面にパスを出す工夫をしていた。
- ・女子の6対6の試合は、シュート機会が少なかったため、攻撃を増やせるよう人数を変えるなどの工夫をするとうい。

#### 2 研究協議

柱① 主体的・対話的で深い学びの授業の展開に向けて、生徒の思考力を高める授業展開。

- ・思考力を高めるために、話し合いではチーム全員に役割を与える。作戦ボードが見やすく、話し合いがしやすいよう座  
らせて行う。
- ・試合の待ち時間や振り返りで、相手チームの動きをみて分析し、試合の勝ち負けだけでなく作戦が達成できたかどうかをま  
とめる時間を確保する。
- ・作戦を複数作らせ、失敗時や相手チームによって、選択できるようにする。
- ・試合の待ち時間で、T2が試合を解説、新たな作戦を引き出す発問を行う。
- ・作戦時のワードを共通用語にし、話し合いがスムーズに進められるようにする。
- ・攻撃、守備の作戦を練る時、攻撃はよく考えられる傾向がある。守備は生徒間で考えるのが難しいので、相手チームの  
キーマンをどう封じるかなどのヒントを教員が声かけをすると活発化する。
- ・最後のまとめで班長以外にも聞いてみることで、より話し合いが活発化するのではないか。振り返りで次回につながる  
声かけをするとよい。
- ・得意なことを生かして作戦を作らせると活発化するのではないか。

#### 3 指導・講評

- ・保健体育の評価・評定についてすばらしい。Cの生徒をどうしたらよいか、手立てを考えるとよい。Aの生徒も更によ  
くなるためにどうしたらよいかの手立ても考えられるとよい。
- ・ねらいの確認が大切である。ねらいの落とし込みをするために、前回の授業の振り返りをさせて生徒と対話しながら行  
う。
- ・ICTの活用をし、動きの確認ができる場面を作る。そこで、課題と振り返りを合致させる。
- ・主体的・対話的で深い学びはどの資料も書き方が違う。学校ごとに、明確に決めておくとうい。
- ・主体的な学びは、見通しと目的。対話的な学びは、話し合いや動きの中での対話。深い学びは、振り返り。わかっ  
ていることをよりわかるように根拠を明確にしていく。運動と思考を一致させていく。
- ・作戦と戦術の違いを明確にしておくことが大切である。
- ・なぜうまくいったか、動きで確認できたものを、話し合いなどで理解できるようにする。「できる・わかる」をセッ  
トにする。
- ・チームワークとグループワーク、共生の視点を持つ。同じチームの中での話し合い、対戦相手の話を聞き、アドバイ  
スをもらうことで深まりが増える。みんなで共有する。

# 秩父市立影森中学校

単 元 名

・球 技（現代的なリズムのダンス）

授 業 者

荒 木 美穂子

笠 越 拓 哉

研究協議会

・「努力を要すると判断される生徒への指導方法・支援方法」

司 会 者

・大 野 彩（秩父市立高篠中学校）

指導・助言者

埼玉県教育局県立学校部保健体育課指導主事

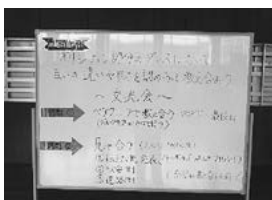
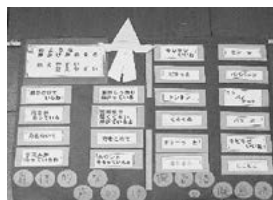
金 杉 博 美

埼玉県教育局北部教育事務所秩父支所社会教育主事兼指導主事

中 山 浩 一



# 《活動の様子》



# 秩父市立影森中学校

単元名	ダンス（現代的なリズムのダンス）
指導者	荒木 美穂子（T1） 笠越 拓哉（T2）
単元目標	<p>○現代的なリズムのダンスの特性に興味を持ち、仲間とリズムによって楽しく踊ることができるようにする。</p> <p style="text-align: right;">【関心・意欲・態度】</p> <p>○協力してオリジナリティーあふれるダンスを作り上げていくことができるようにする。【思考・判断】</p> <p>○リズムの特徴をとらえ、変化とまとまりを付けて、リズムによって全身で踊ることができるようにする。【技能】</p> <p>○ダンスの基本用語、リズムの取り方、ステップの行い方などを理解できるようにする。【知識・理解】</p>
本時の目標	・オリジナル部分のダンスにおいて、互いの違いやよさを認め合い、教え合おう。【関心・意欲・態度】
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 用具の準備</li> <li>2 集合・整列・挨拶・健康観察</li> <li>3 本時のねらいと学習内容の確認</li> <li>4 準備運動             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 準備体操曲名【Live while we're young】</li> <li>(2) エアロビクス曲名【ミッキー】</li> </ol> </li> <li>5 前時の復習             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) グループでオリジナルダンスの動きを確認する。</li> <li>(2) 曲に合わせて行う。曲名【世界はあなたに笑いかけている】</li> </ol> </li> <li>6 ペアグループでオリジナルダンス部分の学び合い             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 各グループを2つに分け、リーダーが中心となって教え合う。</li> <li>(2) 部分練習を行う。</li> <li>(3) フォーメーション（立ち位置）の変化を理解する。</li> </ol> </li> <li>7 見せ合い             <ul style="list-style-type: none"> <li>・伝える側が踊り、見本を見せる。</li> <li>・2つに分かれた一方のグループが発表する。</li> <li>・もう片方が発表をする。</li> </ul> </li> <li>8 グループ内で感想発表</li> <li>9 整理運動（ストレッチ）</li> <li>10 本時のまとめと振り返り             <ul style="list-style-type: none"> <li>・見せ合いの感想や自分達の課題をあげる。</li> <li>・各自で活動の反省を学習カードに記入する。</li> </ul> </li> <li>11 集合・整列</li> <li>12 本時の感想や課題を代表者が発表</li> <li>13 次時の課題を確認</li> <li>14 挨拶・片付け</li> </ol>

## 第43回 北部教育事務所秩父支所管内 中学校体育授業研究会

### 「ダンス（現代的なリズムのダンス）」

#### 1 授業について

- ・生徒は全職員の日頃の指導により、全力で活動し、準備も協力して素早くできる。
- ・今年度のダンスの授業では、教え合いをする時間を確保するため、創作の時間が短くなってしまった。
- ・創作の中心となっていた生徒は教え方も上手であったが、そうでない生徒も多かった。教え合っているうちに徐々に積極的になってきた姿は見られた。
- ・ダンスを苦手と感じる生徒に対して支援する生徒を各班に割り振ったが、実際は自分のことで精一杯となってしまった生徒も見られた。
- ・他のグループとの交流をもっとさせるとよかった。
- ・運動量は準備運動（エアロビクス等）で十分確保できていたが、技能面は十分でないと感じる。残りの授業を通して高めていけるようにしたい。
- ・今後さらに生徒が笑顔で活動できるよう工夫していきたい。
- ・T Tによる授業は初めてである。基本的には2人の体育教諭でそれぞれの種目の授業を行っている。
- ・苦手意識を持つ生徒への支援、声かけを意識的に行っていた。その声かけ、関わり方に課題を感じた。
- ・今回の掲示物が子供達の教え合い活動の手助けとなったかを確認したい。

#### 2 研究協議

- 『努力を要すると判断される生徒への指導方法・支援方法』について7グループで協議を行い、本授業の『良い点』『改善点』『各校での取り組み・工夫点』にも話を広げ、グループでまとめたものを代表者が発表した。

##### 【良い点】

- ・心も体もうきうきして活動していた。（ウォーミングアップ、運動量の十分な確保、教え合い活動等）
- ・リーダーの育成がしっかりとされていた。（グループ活動、教え合い活動でのリーダーの活躍）
- ・教え合いによって自分達のグループと他のグループとの違いや良さをわかる活動ができていた。

##### 【改善点】

- ・グループでの反省の仕方が統一されるとよいのではないか。教師側のねらいと班での目標があった。
- ・T Tの役割の明確化がされるとよい。
- ・教具で鏡があったが、使用するタイミングはどうであったか。多用する場面がなかった。

##### 【各校での取り組み・工夫点】

- ・タブレット、スクリーンの活用。（体育館に常にスクリーンがある学校もある）
- ・曲のスピードを調整し、ゆっくり踊り込めるようにしている。
- ・準備運動の際、音量を絞る、こちらの声が良く届く環境を作る。どの部位を伸ばしているのかを意識させる。

#### 3 指導講評

##### (1) 授業について

- ・ステップ1～9の掲示物により、やったことを振り返ることができるのでよい。
- ・ICTの活用も考えられるが、本時の授業内容であれば必要ない。活用する場面を考えていくことが大切。
- ・生徒同士が良い動きとはどういったものなのかをよくわかっていて共有できている。
- ・何がよいのかをしっかりとわからせる→教え合うことができる。
- ・本時の授業を見て、前時までの授業の指導案を見ながら考えてほしい。本時は活用・探求のプロセスであり、ここまで計画的に授業が進んでいたことがよくわかる。
- ・小学校とも連携しながら、楽しくを重視した授業を行ってほしい。（小・中での楽しさの違い、小学校の出来るを保証した授業の展開）
- ・意欲的に教え合う
  - まずは教師が楽しむ ○伝える側はきっかけを出し、お手本を示し、言葉を付け加えながら笑顔で
- ・苦手意識を持つ生徒への指導
  - 苦手な子が楽しいと思える授業（わかりやすく伝え、出来るようにさせる）
  - 選曲も大事である（楽しく感じるもの、テンポのよいもの等）
  - 掲示物（楽しくさせる工夫 今回の授業では音符やかぶり物をした教員の示範があって生徒も楽しくなる）
- ・課題は、今後どれだけダイナミックに踊れるようになるかを考えながら授業を展開してもらいたい。

# 熊谷市立玉井中学校

単 元 名	授 業 者
・体づくり運動（体ほぐしの運動）	江 森 和 季
・体づくり運動（体力を高める運動）	関 春 美
	新 藤 幸 男

## 研究協議会

- ・分科会 協議の柱
  - ① 生徒が主体的に学び合うための指導方法の工夫
  - ② 個に応じた指導の工夫（インクルーシブ教育の視点に立って）

## 司 会 者

- ・第1分科会 林 克（熊谷市立妻沼東中学校）
- ・第2分科会 谷 口 雅 俊（寄居町立男衾中学校）

## 指導・助言者

埼玉県教育局県立学校部保健体育課指導主事	金 杉 博 美
埼玉県教育局北部教育事務所指導主事	鎌 田 聖 治
熊谷市教育委員会学校教育課指導主事	新 井 美保子



# 《活動の様子》



## 熊谷市立玉井中学校

単元名	体づくり運動（体ほぐしの運動）
指導者	江森和季
単元目標	(1) 体づくり運動に積極的に取り組むとともに、分担した役割を果たそうとすることなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。【関心・意欲・態度】 (2) 課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。【思考・判断】 (3) 体づくり運動の意義と行い方、運動の計画の立て方などを理解できるようにする。【知識・理解】
本時の目標	仲間との交流を通して人数に応じた心の変化に気付く。【関心・意欲・態度】
授業内容	1 集合（出欠確認） 2 整列・挨拶・健康観察 3 ハイタッチ 4 EXダンス 5 アイコンタクト 6 本時のねらいと学習内容の確認 7 体ほぐしの運動を行う 8 整理運動 9 本時のまとめと振り返り 10 次時の予告 11 挨拶・片付け

単元名	体づくり運動（体力を高める運動）
指導者	関春美・新藤幸男
単元目標	(1) 体づくり運動に積極的に取り組むとともに、分担した役割を果たそうとすることなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。【関心・意欲・態度】 (2) 課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。【思考・判断】 (3) 体づくり運動の意義と行い方、運動の計画の立て方などを理解できるようにする。【知識・理解】
本時の目標	ペアで運動強度、運動負荷など助言し合いながら、運動の楽しさや心地よさを味わおうとしている。【関心・意欲・態度】
授業内容	1 用具の準備 2 整列・挨拶 3 出欠確認・健康観察 4 前時の振り返り 5 EXダンス 6 本時のねらいと学習内容の確認 7 体力を高める運動を行う 8 ペアでの振り返り 9 玉井中ストレッチ体操 10 片付け 11 まとめと次時の予告 12 健康観察 13 整列・挨拶



## 第43回 北部教育事務所管内 中学校体育授業研究会

### 第1分科会 体づくり運動（体ほぐしの運動）

- (1) 生徒が主体的に学び合うための指導方法の工夫
- (2) 個に応じた指導の工夫（インクルーシブ教育の視点に立って）

#### 1 授業について

- ・インクルーシブ教育を中心に、仲間との関わりを大切にし体を動かすことが楽しいと思える授業ができた。
- ・心のバロメーターを見える化し、客観的に評価できるよう掲示物を工夫した。
- ・ルールを徹底して、安全に配慮することができた。
- ・ねらいに対しての評価方法の設定に課題が残る。

#### 2 研究協議（本授業を踏まえながら）「○」…良かった点 「▲」…今後の課題

- (1) 生徒が主体的に学び合うための指導方法の工夫
  - 男女の関係が良く安心して活動できていた。
  - 運動の得意・不得意に関係なく、すべての生徒の興味を引き出すアイデアが多くあった。
  - 少人数グループにすることでスモールティーチャーを意図的に作り、生徒同士で積極的に話し合っていた。
  - 小人数から大人数と関わりが増えていくなかで、人数が少ない状態の気づきから集団となることで気づきに変化が起り、より深い学びをしていた。
  - ▲規律を整えることで生徒が安全に行動でき、結果、主体的な学びにつながるであろう。
- (2) 個に応じた指導の工夫（インクルーシブ教育の視点に立って）
  - 心の変化が見えることによって、心と動きの相互性を感じることができていた。また、他者との違いにも気付くことができていた。
  - 簡単な動作の中で会話も増え、運動の得意・不得意に関係なくどんな生徒でも楽しめる授業となっていた。
  - グループ活動・ペア活動において努力を要する生徒を認める明るい雰囲気作りとなっていた。
  - ▲リラックスさせる時は、グループではなく個別に行わせる方が良いのではないか。

#### 3 指導講評

- ・子供の表情と動きを見て、教師と生徒の信頼関係を感じることでできるすばらしい授業だった。
- ・心と体の変化と技能の評価がないため、難しい単元である。「人数に応じた心の変化」をどう評価していくかが大切になる。
- ・自己の心と体が密接に関係していることを理解することが大切なので教師の意図的な発問が大切となる。
- ・体ほぐし運動は評価があいまいなところもあるので、例えば二時間に一つの評価で行っていくのも良い。
- ・今回の授業で子供が安心して動いていたのは、規律を守った方が楽しいということを一一人が理解していたからではないか。
- ・主体的・対話的で深い学びについては、以下の6つのことが大切。
  - ①学習への興味・関心を大切にすること。子供達が次の学びに向かっていけること。
  - ②興味や関心の喚起。「楽しい」、「またやりたい」と思わせること。
  - ③学習の見通しの提示。「次回はここまで」、「今日はここまで」と先を見通すこと。
  - ④課題と課題解決の手順。ただ課題を持つことだけでなく、解決のために考えること。
  - ⑤学習の振り返りの提示、学習の見える化。
  - ⑥学びの成果の確認。「何を学べたのか?」、「何を感じたのか?」を考える環境。
- ・インクルーシブ教育は個別の課題を設定してあげること。共に生きる共生視点が大切となってくる。
- ・これからは、運動が苦手を作らない授業、苦手な生徒を放置しない授業など、今回の授業のように「楽しい体育」を日々考えて授業していくことが大切となる。

### 第2分科会 体づくり運動（体力を高める運動）

- (1) 生徒が主体的に学び合うための指導方法の工夫
- (2) 個に応じた指導の工夫（インクルーシブ教育の視点に立って）

#### 1 授業について

- ・始めは少し元気がなく、子ども同士の声かけもやや少なかったが、授業が進むにつれて声かけも増え、よく関わりが持っていた。
- ・ペアとの関わりを重視し、アドバイスし合える環境を作ることができた。
- ・運動が苦手な生徒も自分に合ったプログラムを作成することができた。
- ・体力を高めながら運動する心地よさを味わえるような授業を行うことができた。

#### 2 研究協議（本授業を踏まえながら）「○」…良かった点「▲」…改善点

- (1) 生徒が主体的に学び合うための指導方法の工夫
  - ペア学習はアドバイスがしやすく、生徒同士が主体的に学びあうために有効な手立てであった。
  - ペアの組み方を工夫することで生徒がより親密に関わり合っていた。

- ▲生徒たちにどんな声掛けをさせたいのか、教師側からの仕掛けを工夫した方がよい。
- ▲肯定的な声掛けだけでなく強制的な声掛けも必要。やる気を出させたり、課題に気付かせるための具体的な声かけをしたほうが良い。
- (2) 個に応じた指導の工夫（インクルーシブ教育の視点に立って）
  - 準備や片付けにも、それぞれ役割を割り当てることにより、一人一人が責任を持つことができていた。
  - 生徒の能力に応じて運動強度を変えることによって、生徒それぞれが具体的な目標が立てられていた。
  - ▲声かけに用いる言葉の具体例の掲示があると良い。
  - ▲ICTは理解力を高める上で有効だが、活用の仕方によっては運動量が減ることもあるので注意が必要。

### 3 指導講評

- ・体力を高めることは、この先豊かな人生を送る上でとても大切となる。
- ・主体的に活動させるためには、ペア学習は有効的。その際に、生徒が興味を惹くもので、なおかつ簡単すぎず難しすぎない、やってみたいと思う場の設定が必要となってくる。
- ・学習の見通しの提示と学びの成果の確認が大切。
- ・生徒の表現を伸ばす→教師側の適切な助言が必要。
- ・インクルーシブ教育の視点に立った授業をするためには、指導案作成時に努力を要する生徒を想像して作成することが必要。
- ・新学習指導要領になる上でのキーワードとして、何を学ぶのか、どのように学ぶのか～学習活動が重要。
- ・めあて、見通し、場の設定が必要となる。また、ねらいに迫る発問、まとめと振り返りの充実も大切となる。なお、まとめと振り返りは異なるもの。振り返り→ 学習の捉えなおし（必ず授業内でとることが大切）まとめ → 学んだ内容や方法の整理、確認。
- ・運動の楽しさを味わわせることが大切であり、そのために学習規律が必要となる。

# 本庄市立本庄南中学校

## 単 元 名

- ・球 技 (サッカー)
- ・球 技 (バスケットボール)

## 授 業 者

鈴木 陽 介  
富 田 真 澄  
柳 田 育 美  
阿久津 広 真

## 研究協議会

- ・第1分科会 球 技 サッカー
- ・第2分科会 球 技 バスケットボール

主体的に学習に取り組む生徒の育成を目指して  
～指導法の改善と学習活動の工夫～

## 司 会 者

- ・第1分科会 伊 藤 真 弥 (上里町立上里北学校)
- ・第2分科会 田 中 理 沙 (神川町立神川中学校)

## 指導・助言者

埼玉県教育局県立学校部保健体育課指導主事 金 杉 博 美  
埼玉県教育局北部教育事務所指導主事 鎌 田 聖 治  
本庄市教育委員会学校教育課指導主事 石 井 利 昌

# 《活動の様子》





## 本庄市立本庄南中学校

単元名	球 技 (サッカー)
指導者	鈴木 陽 介・富田 真 澄
単元目標	<p>(1) 自主的に取り組むとともに、フェアプレイを大切にしようとする事、自己の責任を果たそうとすること、作戦などについての話し合いに貢献しようとする事や、健康・安全を確保することができるようにする。 【関心・意欲・態度】</p> <p>(2) 自分やチームの課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。 【思考・判断】</p> <p>(3) 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦に応じた技能で仲間と連携し、ゲームを展開できるようにする。 【技能】</p> <p>(4) 技能の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解できるようにする。 【知識・理解】</p>
本時の目標	味方が作り出した空間に動いたり、パスを出すことができる。 【技能】
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 用具の準備</li> <li>2 集合・整列・挨拶・健康観察</li> <li>3 準備運動・補強運動</li> <li>4 感覚づくりの運動</li> <li>5 本時のねらいと学習内容の確認</li> <li>6 課題解決学習</li> <li>7 ゲーム</li> <li>8 集合・整列・整理運動・健康観察</li> <li>9 本時の振り返りとまとめ</li> <li>10 挨拶、片付け</li> </ol>

単元名	球 技 (バスケットボール)
指導者	柳 田 育 美・阿久津 広 真
単元目標	<p>(1) 自主的に取り組むとともに、フェアプレイを大切に、自己の責任を果たそうとし、作戦などについての話し合いに貢献し、健康・安全を確保することができるようにする。 【関心・意欲・態度】</p> <p>(2) 自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。 【思考・判断】</p> <p>(3) 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームが展開できるようにする。 【技能】</p> <p>(4) 技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解できるようにする。 【知識・理解】</p>
本時の目標	仲間と連携してゴール前の空間を使ったり、作ったりしてゲームができる。 【技能】
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 用具の準備</li> <li>2 集合・整列・挨拶・健康観察</li> <li>3 準備運動・補強運動</li> <li>4 感覚づくりの運動</li> <li>5 本時のねらいの確認</li> <li>6 空間を意識した動きの確認</li> <li>7 簡易ゲーム (ハーフコート3対3)</li> <li>8 集合・整列・整理運動・健康観察</li> <li>9 本時の振り返りとまとめ</li> <li>10 挨拶、片付け</li> </ol>

## 第43回 北部教育事務所管内（児玉郡・本庄地区）中学校体育授業研究会

### 第1分科会

#### 「球技（サッカー）」

##### 1 授業について

（授業者の反省）

- ・男女の技能差が大きいので、単元の途中から男女別で行った。
- ・男子は自分たちで考えたメニューを全体でやりたいという意見を尊重した。女子はメニューを提示して行った。
- ・事前準備にあたふたしてしまった。余裕を持って準備ができるようにすれば良かった。

（質疑応答）

・これからのゲームの計画はどう考えているか

→大きくルール変更はせず、生徒の習熟度によって考えていきたいと思う。

・1年生の時や単元のはじめではどんな雰囲気で行っていたか

→ボールを多くさわらせる、たくさん動けるようなゲームの工夫をとり入れた。

・この授業での評価のポイントはどこですか

→スペースに走り込んでいるか。ボールをタイミング良く出せているか。

##### 2 研究協議

『生徒の技能の高まりがわかる指導法、学習活動の工夫』

###### (1) 授業を参観して

A班：学習規律が良かった。運動量が多かった。子ども同士の声掛けが良かった。トラップなどの技能の高さがみられた。ゲームの時に女子のコートが狭く感じたので、人数を減らしても良かったのではないかと。男女別のねらい設定でも良かったのではないかと。アシストで点数を与えても面白かったと思う。

B班：積み上げが感じられた。技能のポイントを3つにしぼってわかりやすかった。掲示物をしっかり使っていたのが良かった。作戦タイムの時間。声掛けの回数。セーフティゾーンの使い方を考えていくと良いのではないかと。人を使った動きで評価を明確にしても良いのでは。ICTの活用もできるといいのではないかと。足で難しい時は、手で空間を使った動きの練習をしても良いのではないかと。

C班：発表を聞いてもらえるような工夫が出来ていた。声掛けの回数を増やしても良かったのではないかと。タッチ数の制限があっても良かったのではないかと。女子の攻撃が有利なゲームの工夫があるともっと良かったのではないかと。男女共習のメリットもある。用具を変えてやりやすくすると良いのではないかと。係を1人1つ作るなどして役割を与えても良かった。フラフープでボールの管理をしたり、持ち出すボールの数を決めたりしておくとも良かった。

##### 3 指導講評

- ・授業計画がしっかり練られているのが、指導案に表れていた。
- ・レベルがわかれている掲示物は、今日だけではなく、これからも使える掲示物だと思う。
- ・技能を評価する授業の前に思考の授業を行うことで、技能の活性化が行われる。
- ・メインゲームの前にちょっとした振り返りの時間があっても良かった（ねらいや作戦の確認）
- ・いろいろ教え過ぎ。もう少し自分たちで考えさせていけると良いのでは。
- ・次はコートを広さを工夫できると良いのではないかと。
- ・技能を高めるためには、失敗ができる集団作りが必要。
- ・兄弟グループでゲームをしてもいいのではないかと。
- ・必要な所で必要な評価をする単元計画になっているか確認していく。
- ・先生がねらっていることを子ども達がわかっているように。
- ・主体的で深い学びの為に、今までやってきたことをしっかり確認して授業が行われるようにする。

### 第2分科会

#### 「球技（バスケットボール）」

##### 1 授業について

（授業者の反省）

- ・時間配分が上手くいかなかった。生徒はよく動いていた。
- ・空間を作り出すための形の確認に時間を多く取るべきだった。
- ・感覚作りは動くことをメインに考えて、ハンドリングをけずった。
- ・3対2のだとディフェンスが少なく、どう守って良いかわからないので3対3でおこなった。
- ・ゲームのなかでは生徒が互いに声をかけあってよくできていた。
- ・空間を使うことができるようにするにはどうしたらよいか、とても難しかった。
- ・ねらい→見通し→展開→まとめ→振り返りを徹底することを心掛けた。
- ・練習の時間をもっととって良かった。
- ・いつも以上に声が出て、動いていた。
- ・技能についてもよく身に付いていたと思う。



(質疑応答)

- ・バスケットボール経験者がどれほどいるのか。レベルが高かったので→男女とも5人  
バスケ部でなくても、ボール感覚の良い生徒が多かった。また、バスケ部がよく面倒をみていた。基本に時間をとった成果もでていた。
- ・3年生を指導していくうえで、空間を作り出す、使うためにはどのような指導をしていくべきか  
→△に入ってからシュートを打つ。ボードにボールのマークに当てて、シュートを入れる。また、遠くではなく近くからシュートを打って仲間と連携してパスを中心にしたゲームを組み立てるように計画を立てた。

## 2 研究協議

『生徒の技能の高まりがわかる指導法、学習活動の工夫』

(1) 授業を参観して、「引き出す」ための実践（自校の取り組みも含めて）

<良い点>

- ・△×マークは動きやすく生徒がポジションを確認しやすい。
- ・近くから積極的にシュートを打っていた。
- ・学習規律が整っていた。教員の指示がよく聞けていた。
- ・できる生徒ができない生徒に手本を見せて具体的な指導をしていた。
- ・導入でICTを活用、動きのイメージがつかめた。
- ・生徒間の声掛けがよかった。
- ・教具が工夫されていて、生徒が動きやすそうだった。
- ・指導力があり、生徒に分かりやすい言葉で伝えていた。
- ・床のマークは生徒の目線にたったアイデアでとてもよかった。

<改善点>

- ・生徒同士の盛り上がりが少ない。
- ・シュートが決まったら、あらかじめ決めておいたりアクションを取り合う。
- ・床が滑るので、必ずジャンプストップをする。
- ・キーワードを作り、理想的な動きを引き出すような仕掛けを作る。
- ・生徒によってボーナス点を与える。
- ・練習中に一度とめて、全体にできている生徒を再度紹介するとよかったのではないかな。

## 3 指導講評

- ・素早い行動と元気な声がとてもよかった。日頃からの指導の成果
- ・黒板の活用、ICTの活用、生徒を使つての実演も「見える化」ができていた。
- ・集合は最小限で、活動量が確保されていた。
- ・活動中も教師がたくさん指導、助言している様子が見えてよかった。
- ・シュートが決まったときの喜びの声が少なかった（男子）
- ・体育の授業は体力向上に加えて、運動好きな生徒をいかに増やすかが課題である。
- ・本庄市の取り組みについて「分かる、できる、汗をかく授業の実践」
  - ①授業スタイルの確立
  - ②汗をかく授業教師の声掛け100回活動時間の確保
  - ③新体力テスト投力・持久力が課題
- ・楽しいとは何か→動く集う分かる伸びる楽しさを味わわせること  
それが本授業研究会ではできていた。
- ・安全面の配慮、教材教具の工夫、分かりやすい言葉、見通しがもてるような言葉遣いが良かった。
- ・賞賛・レベルアップする言葉がけができていて、どう良かったのかを伝えていたことが良かった。
- ・生徒との関わり方をみて、日頃から丁寧に生徒をみて、信頼関係を築けていると感じた。
- ・ICTの活用では良い例だけでなく悪い例も見せる。生徒達の姿をみせるとより分かりやすかったのではないかな。
- ・対話的な学びとは体育だからできるハイタッチなど動きながらできる良さを出していけると良い。  
生徒が「思考を促す」授業づくり、取り組みをしていくことが必要である。
- ・運動技能を身につけることが大切である。そのために教材教具を工夫して、運動のポイントを整理しておく、スモールステップで解決できる準備をしておく。
- ・話し合いはねらいを絞っておこなわせることが大切。
- ・ねらいに沿った言葉かけをつねにおこなう。
- ・変容を生徒に求めるので、ゴールを設定して、授業をおこなう。
- ・まとめと振り返りについて  
まとめは今日、何をやったのか整理する時間、やった過程を伝えて確認する。  
振り返りは自分で捉え直す、味わい直す。「今日はこういうことが上手くいった、上手くいかなかった」など、生徒が感じたことを考える時間。意欲付けと課題設定
- ・声の出し方について大きい声を出すのはどんなときか
- ①褒めるとき②価値観がわかるとき③危険な行為④運動のポイントを伝える
- ⑤教師の感情
- ・ICTの活用  
目的ではなく、手段として5W1Hを意識しておこなう。

# 越谷市立中央中学校

## 単 元 名

## 授 業 者

- |               |         |
|---------------|---------|
| ・武 道 (柔道)     | 長谷川 寛 喜 |
| ・球 技 (バレーボール) | 歌 川 愛 子 |
| ・球 技 (ハンドボール) | 下 川 菜 摘 |

## 研究協議会

- ・第1分科会〔武道（柔道）の主体的・対話的で深い学びにつながる教材・教具の工夫〕
- ・第2分科会〔球技（バレーボール）の主体的・対話的で深い学びにつながる教材・教具の工夫〕
- ・第3分科会〔球技（ハンドボール）の主体的・対話的で深い学びにつながる教材・教具の工夫〕

## 司 会 者

- ・第1分科会 阿 部 浩 也（春日部市立豊野中学校）
- ・第2分科会 喜多村 麻 里（八潮市立潮止中学校）
- ・第3分科会 品 川 竹 秋（八潮市立八幡中学校）

## 指導・助言者

埼玉県教育局県立学校部保健体育課指導主事	金 杉 博 美
埼玉県教育局東部教育事務所指導主事	瀬 高 武 夫
越谷市教育委員会指導課主任指導主事	松 本 智 成
吉川市教育委員会教育部学校教育課副主幹	野見山 伸 一

《活動の様子》



## 越谷市立中央中学校

単元名	武 道 (柔道)		
指導者	長谷川 寛 喜		
単元目標	<p>(1) 柔道に自主的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとする こと、自己の責任を果たそうとすることなどや、健康安全を確保することができるようにする。 【関心・意欲・態度】</p> <p>(2) 自己の能力に応じた得意技を見付け、健康や安全を確保し、試合での攻防や適切な練習方法を選ぶ ことができるようにする 【思考・判断】</p> <p>(3) 相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技、得意技や連絡技を用いて、相手を崩して投げた り、抑えたりするなどの攻防を展開できるようにする。 【技能】</p> <p>(4) 伝統的な考え方、技の名称、体力の高め方、運動観察の方法などを理解できるようにする。 【知識・理解】</p>		
本時の目標	自分に合った得意技を見付けよう。		【思考・判断】
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 集合、挨拶、健康観察</li> <li>2 準備運動</li> <li>3 ウォーミングアップ</li> <li>4 本時のねらいと学習内容の確認</li> <li>5 投げ技の練習</li> <li>6 簡易試合</li> <li>7 整理運動</li> <li>8 学習課題の振り返りとまとめ</li> <li>9 挨拶</li> <li>10 着替えと片付け</li> </ol>		

単元名	球 技 (バレーボール)		
指導者	歌 川 愛 子		
単元目標	<p>(1) フェアなプレイを大切にしようとする、自己の責任を果たそうとすること、作戦などについて の話し合いに貢献しようとするなどや、健康・安全を確保して、学習に自主的に取り組むことが できるようにする。 【関心・意欲・態度】</p> <p>(2) 自己やチームの課題に応じた運動の取り組みを工夫することができるようにする。 【思考・判断】</p> <p>(3) 役割に応じたボール操作と連携した動きによって空いている場所をめぐる攻防を展開することが できるようにする。 【技能】</p> <p>(4) バレーボールの技能の名称や行い方、ルールや審判法、運動観察の方法、試合の行い方を理解でき るようにする。 【知識・理解】</p>		
本時の目標	仲間と連携して「拾う、つなぐ、打つ」などの一連の動きで攻撃することができる。		【技能】
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 集合・整列・挨拶・健康観察</li> <li>2 準備運動</li> <li>3 感覚づくりの運動</li> <li>4 本時のねらいと学習内容を確認する</li> <li>5 本時の学習・各ポジションの練習</li> <li>6 ゲームⅡ</li> <li>7 整理運動</li> <li>8 学習の振り返り</li> <li>9 次時の予告</li> <li>10 挨拶・片付け</li> </ol>		

単 元 名	球 技 (ハンドボール)
指 導 者	歌 川 菜 摘
単 元 目 標	<p>(1) フェアなプレイを大切にしようとする事、自己の責任を果たそうとする事、作戦などについての話し合いに貢献しようとする事などや、健康・安全を確保して、学習に自主的に取り組むことができるようにする。 【関心・意欲・態度】</p> <p>(2) 自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫することができるようにする。 【思考・判断】</p> <p>(3) 作戦に応じた技能や仲間と連携した動きでゲームを展開できるようにする。 【技能】</p> <p>(4) ハンドボールの技術の名称や行い方、体力の高め方等を理解できるようにする。 【知識・理解】</p>
本時の目標	自己のチームや相手のチームの特徴を踏まえた作戦や戦術を選んでいる。 【思考・判断】
授 業 内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 集合・整列・挨拶・健康観察</li> <li>2 準備運動</li> <li>3 感覚づくりの運動</li> <li>4 本時のねらいと学習内容の確認</li> <li>5 チームミーティング</li> <li>6 ゲーム I</li> <li>7 整理運動</li> <li>8 学習の振り返り</li> <li>9 時事の予告</li> <li>10 挨拶・片付け</li> </ol>



## 第1分科会

### 「武道（柔道）の主体的・対話的で深い学びにつながる教材・教具の工夫」

#### 1 授業について

- ・考えることがねらいの授業を目指した。
- ・ICTの活用を取り入れた。今後は様々なアプリ等を使って活用していきたい。
- ・充実した教材教具、対戦表などの環境づくり、授業途中で記入できる学習カードの工夫も良かった。
- ・生徒主体の授業であり、先生の発問に対してきちんと技の説明ができていた。
- ・安全面の確保と教師の立ち位置の工夫があるとさらに良い。

#### 2 研究協議

- ・チューブについて、長さの工夫や握る位置に結び目をつけて目印にするなどの工夫ができる。
- ・柔道部の生徒をリトルティーチャーとして活用してはどうか。
- ・ICTの活用について、試合でも撮影して振り返りの教材として活用する。
- ・男女混成のグループにして、観察するのが異性となるようにしてはどうか。
- ・ポイント制の試合にすると、技をたくさんかけることができるのではないか。
- ・崩しの必要性、つり手とひき手の必要性、身体の接触やぶつかり合いを増やす。

#### 3 指導講評

- ・指導案のねらいが明確であった。板書も良かった。
- ・指導と評価の計画をきちんと作成し、ゴールをきちんと見据える。
- ・これまでどこまで知識や技術を身につけているかで、話し合いができるかどうかが変わってくる。
- ・先生が見つめ直すことが主体的・対話的な深い学びにつながる。
- ・必要性を感じて使うものが教材教具である。
- ・2021年に新学習指導要領完全実施になる。来年度の新入生が3年次になる時である。保健の内容、体育理論の内容が変更になる。きちんと確認しながら履修していくこと。

## 第2分科会

### 「球技（バレーボール）の主体的・対話的で深い学びにつながる学習活動の工夫」

#### 1 授業について

- ・1、2年生ではほとんどの生徒がバレーボールの基礎基本を身につけている。
- ・生徒について、意欲はあるが男女の差が大きい。
- ・前回までにジグソー法でそれぞれの練習を行い、本時は3段攻撃を意識させてゲームを行わせた。

#### 2 研究協議

- ・深い学びにつながるための学習規律が徹底されていた。
- ・サーブ練習の時の声かけが対話的な練習法であった。
- ・3段攻撃を繰り返していくためにどうすればよいか考えながら活動していた。
- ・リーダー以外の声かけやゲーム間の作戦タイムなどがあるともっと対話的授業になる。
- ・ラインの設定があるとルールが徹底される。
- ・男女での盛り上がりには差がある。男女混合で行ったり、ワンバウンド等ルールの改善もできそう。

#### 3 指導講評

- ・小中一貫の意識をもって、小中で授業の連携、系統を意識していく。
- ・生徒との信頼関係がしっかりとしていたので、学習規律もよく、生徒主体で自発的に学習していた。
- ・埼玉県では技能は高いが意欲が低いことが課題である。運動の特性を味わい、生徒が楽しいと思うような授業が求められる。
- ・深い学びとは生徒の良き変容があったかどうかで評価していくとわかりやすいのではないか。

## 第3分科会

### 「球技（ハンドボール）の主体的・対話的で深い学びにつながる学習過程の工夫」

#### 1 授業について

- ・思考判断を重視して授業を行った（付箋を使い個人の考えを書かせたことが良かった）。
- ・整理運動が抜けてしまったり、声かけが少なかった。
- ・今後の課題として、1年次で3年間分を見通した単元計画を作成したい。

#### 2 研究協議

- ・ストップゲームトークの導入、ホワイトボードの活用により、話し合い活動が充実していた。



- ・話し合いの場や学習カードの作り方が丁寧で、ねらいに迫るための工夫がみられた。
- ・導入がよかったので、後の話し合いにつながっていた。
- ・思考判断重視の中でも、運動量の確保は必要なのではないかと。ゲーム人数を少なく設定することで運動量の確保につながる。また、説明を短くして運動量を確保する。
- ・話し合いと運動量の確保を両立させるには、個人ノートの量は適当だったのか。
- ・運動量の確保に向けて感覚づくり→タスクゲーム→メインゲームの流れは効果的である。
- ・スピード感→アップの運動としてランニングパス等を取り入れる。
- ・外からゲームを見ている人も必要である。チーム数を増やして活動することにもメリットがある。
- ・状況により、コートやメンバー、ポジションチェンジをしてもよい。

### 3 指導講評

- ・本時のねらいを明確にすること。
- ・ねらいに応じた発問を大切にすること。
- ・対話的な学びのポイント
  - ①単元、本時のねらいの達成に向け、明確にとらえること。  
コートの広さや人数を考える。タスクゲームの活用。
  - ②単元を見直し、意図的、計画的に継続すること。
  - ③運動しながらの対話的学びもある。
  - ④言語活動を行う理由を丁寧に教える。
  - ⑤話し合い活動に価値を与える。
- ・ジグソー法でチームにエキスパートを導入することで、思考から技能につなげていく。
- ・A（十分満足できると判断される状況）とC（努力をようすと判断される状況）の生徒を3時間くらい見ていく。  
CをBに引き上げることをやっていく。
- ・お互いに見ることで学ぶことができるので8人1チームは4人2チームの組み方も有効である。

# 行田市立太田中学校

単 元 名	授 業 者
・武 道 (柔道)	高 舘 俊 成
・ダンス (創作ダンス)	登 坂 貴 子

## 研究協議会

- ・第1分科会 武 道 (柔道)  
〔武道の特性に応じた効果的な学習指導の工夫  
～安全に配慮した授業作りの工夫～〕  
〔武道の特性に応じた効果的な学習指導の工夫  
～学び合い・教え合いの場づくりの工夫～〕
- ・第2分科会 ダンス (創作ダンス)  
〔ダンスの特性に応じた効果的な学習指導の工夫  
～生徒一人一人を確実に伸ばす学習指導の工夫～〕

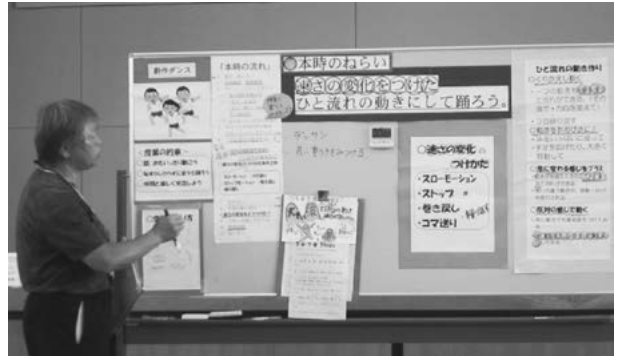
## 司 会 者

- ・第1分科会 中 西 忠 弘 (加須市立騎西中学校)
- ・第2分科会 中 村 通 子 (羽生市立西中学校)

## 指導・助言者

埼玉県教育局県立学校部保健体育課指導主事	金 杉 博 美
埼玉県教育局東部教育事務所指導主事	瀬 高 武 夫
行田市教育委員会学校教育課指導主事兼主幹	金 野 泰 久
越谷市立桜井小学校校長	江 村 恵里子

# 《活動の様子》



# 行田市立太田中学校

単元名	武道（柔道）
指導者	高 館 俊 成
単元目標	<p>(1) 柔道に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすることや、禁じ技を用いないなど健康・安全に気を配ることができるようにする。 【関心・意欲・態度】</p> <p>(2) 柔道の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。 【思考・判断】</p> <p>(3) 基本動作や基本となる技ができるようにする。相手の動きに応じた動作から、基本となる技を用いて、投げたり抑えたりするなどの攻防を展開できるようにする。 【技能】</p> <p>(4) 武道の特性と成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方、関連して高まる体力、試合の行い方などを理解できるようにする。 【知識・理解】</p>
本時の目標	自己や友だちの課題を見付けよう。 【思考・判断】
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 集合・整列・挨拶（二礼）・健康観察（爪、髪、服装）</li> <li>2 準備運動</li> <li>3 感覚づくりの運動</li> <li>4 本時のねらいと学習内容を確認</li> <li>5 約束練習</li> <li>6 自己の課題の確認と練習</li> <li>7 固め技の簡易試合（乱取）</li> <li>8 整理運動</li> <li>9 学習の振り返りとまとめ</li> <li>10 次時の予告</li> <li>11 挨拶・柔道衣や用具の後片付け</li> </ol>

単元名	ダンス（創作ダンス）
指導者	登 坂 貴 子
単元目標	<p>(1) 積極的に取り組むとともに、よさを認め合おうとすること、分担した役割を果たそうとすることや、健康・安全に気を配ることができるようにする。 【関心・意欲・態度】</p> <p>(2) 自己やグループの課題解決を目指して、「4つのくずし」を意識しながら、動きの構成や変化のつけ方を工夫することができるようにする。 【思考・判断】</p> <p>(3) 多様なテーマから表したいイメージをとらえ、動きに変化をつけて即興的に表現したり、変化のあるひとまとまり（ひと流れ）の表現にしたりして踊ることができるようにする。 【技能】</p> <p>(4) ダンスの特性、表現の仕方などを理解できるようにする。 【知識・理解】</p>
本時の目標	速さの変化をつけたひと流れの動きにして踊ろう。 【技能】
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 集合・挨拶</li> <li>2 出席確認・健康観察</li> <li>3 ウォーミングアップダンス</li> <li>4 本時のねらいと学習内容を確認</li> <li>5 スポーツのデッサン</li> <li>6 「速さの変化をつけたひと流れの動き」作成</li> <li>7 簡単な見せ合い</li> <li>8 学習の振り返り</li> <li>9 次時の予告</li> <li>10 整理運動</li> <li>11 挨拶</li> </ol>

# 第43回 東部教育事務所管内（北埼玉地区）中学校体育授業研究会

## 第1分科会

### 「武道（柔道）」

#### 1 授業について

- ・本日の授業は思考判断をねらった授業であった。
- ・授業を展開するクラスの中には、特別支援学級の生徒や、覚えるのに時間がかかり、帯を結ぶことすら個別に支援する必要がある生徒がいるクラスだったので、難しかった。そのため、ペア学習を展開することで学び合いながら、一人ではわからないことを支援していこうと考えた。
- ・本時の展開ではくずし、体さばきに絞って実施し、内容を深めていこうと考えた。お手本を真似することも難しい中で、ペアに確認してもらい技能カルテを使ってチェックをし、練習方法を定めていく学習を進めた。
- ・何ができていて、何ができていないのかわからない生徒がいる中でこのペア学習が困難なペアもいた。
- ・授業の中でもっと長く乱取り練習を行いたかったが、思考判断をねらった時に運動量を確保することが課題であると感じた。

#### 2 研究協議

##### (1) 武道の特性に応じた効果的な学習指導の工夫～安全に配慮した授業づくりの工夫～

- ・安全面を考えると人数のわりに活動場所が狭い。→剣道場にマットを敷き畳の代わりとして活用する。
- ・首ブリッジはできない生徒が勘違いすると危険。
- ・受け身の徹底→ポイントの説明を毎回行う。
- ・固め技の工夫→危険だと思ったら「タップ」させる。
- ・乱取りの工夫→膝立ちからの体さばきをしっかり覚えさせる。
- ・生徒間の距離が近い→安全なスペースの確保（奇数、偶数に分けるとよい。）安全面の配慮。
- ・けがをしないための工夫→①受け身の習得が一番大切。段階的に行う。（低い所から高くしていく）
  - ② w - up（首ブリッジ・背中ブリッジ）感覚づくりとして、エビ・ワニは実践につながっているから取り入れていきたい。
- ・受け身の取り方→釣り手、引き手の使い方の指導。

##### (2) 武道の特性に応じた効果的な学習指導の工夫～学び合い、教え合いの場作りの工夫～

- ・技能カルテ→教材の工夫としてとてもよかった。
  - 課題点：項目が多すぎた（生徒が見きれないのでポイントを絞る）
    - ：ペアに見てほしいポイントを伝える。
    - ：乱取りではなく、「取」「受」を決めてやる時に使った方がよい。
    - 乱取り確認をする。
    - ：受け身でも活用できる。
- ・掲示物や学習資料「技能カルテ」を見せ確認させる。
- ・崩す方向を8方向にし、互いに崩す方向を確認しながら実践できる。
- ・シェアタイム（ペア・グループ、誰にでも話をしにいい時間を設定）学び合い、教え合いを深くし、互いに高めあっていく。（対話的な学びを進めていく）
- ・技の技能を高めるためにデジタルコンテンツ（技をクリック）つまずいた生徒に見に行かせる。ICTの活用。ipadで自分の動きを確認させる。

#### 3 指導・講評

- ・全体の学習過程を作るのが重要。
  - 前転、後転できないのは足首の硬さにある（トイレが様式になったこともある）
- ・学習カードの利用→技のポイントが書いてあるもの→絞ってあるもの→「技能カルテ」
- ・思考力を高めるには言葉が重要。課題が明確になり、何をどのように振り返ったらよいかわかるようになる。
- ・タブレットは動画をすぐ見せるということで活用するとよい。
- ・子供たちの現状をよく把握して授業に取り組んでもらった。
  - 質問：横四方固めについて
  - 回答：手は首を通し、横向きにおさえることで横四方固めとなる。手はどこをおさえてもかまわない。
    - ☆この授業では横四方固めの連絡、変化技でのけさ固めになっていた。
  - 質問：女子の髪型について
  - 回答：首の後ろが見えるように、上の方に結んで束にするなどがよい。その方が痛い思いはしない。
  - 質問：ヘッドギアについて
  - 回答：怪我防止用のヘッドギアがある。後ろにクッションがついているもの。レスリングなどのヘッドギアは耳がつかれないようにするため。それよりも頭をつけないという指導が大事。
- ・指導案について
  - アンケート調査では1年生ということで経験したことがない種目に対して「好き」「嫌い」ではなく「イメージを答えさせる」ようなプラスのイメージを転換させるようなものがあるとよいのではないかと。イメージをプラスにするとよい。
- ・指導の評価計画について
  - 縦軸と横軸の兼ね合いのゴールイメージを持つこと。



- ・本時の展開について  
思考判断を求める授業  
ポイントを精査するとよかった。1年次の授業では2年生につながる指導をしてもらいたい。
- ・技能カルテについて  
ポイントを絞る。
  - 1 押さえる側でみる
  - 2 受け側でみる
 学習→練習→試合のスパイラルはよかった。
- ・思考判断を働かせることによって次の授業がもっと面白くなるはず。  
この授業で技能を評価→横のつながりが見えるようになる。課題がつながるような知識があるのか？
- ・全体の真ん中に思考判断の授業を持っていく。よりよくするためにはどうしたらよいかを考える時間は毎時間やる必要はない。体を動かして頭の中でイメージをする。  
\*求めすぎて子供の体力が低下する傾向がある。  
思考を求めたら、次は技能の評価をする授業をもってくる。1年でできなかったことを2年でフォローアップする授業を展開しなければならない。
- ・新学習指導要領アクティブラーニング教育課程  
深い学び
  - ①問題解決的な学習や探究的な学習を入れる。
  - ②児童生徒が問題解決できる課題を設定する。
  - ③子どもの発言に対して問い直したり、切り返したりすると子供の思考は高まっていく。
  - ④思考を深めるための学習資料。
  - ⑤自分の考えを文章でまとめる活動を取り入れる。
  - ⑥学びの深まりを高めるためには各教科の特質に応じた、見方、考え方が必要である。

## 第2分科会

### 「ダンス（創作ダンス）」

#### 1 授業について

- ・生徒は表現するのが苦手
- ・見せ合い・つなぐのを一部分カット
- ・ピタッと止まる、大きく動く等

#### 2 研究協議

- (1) 学習指導要領の趣旨を踏まえた評価の工夫～指導と評価の一体化を図った評価の計画の工夫～
- ・楽しく心を開いていて雰囲気がよい。
  - ・声かけが効果的で、元気な男子が集まって盛り上がっていた。
  - ・役割を与えることによって一人一人が伸びる。
  - ・声かけのタイミングや言葉、DVDを見せたことによって良い影響があった。
  - ・全体を見て指導しているところ、先生の温かさが伝わる授業はたいへん参考になった。
  - ・約束事・規律を4月に確認することが大切である。
  - ・ウォーミングアップで基本的なステップからできると覚えやすい。
  - ・色々な場所に課題を置き、その課題をやる。(サーキット)
  - ・見学者の居る場所について。

#### 3 指導・講評

- ・先生が思いつき動いて感動した。
- ・この5月に1年生の創作ダンスというのがすごい。
- ・埼玉県の生徒は体力テストの結果は高いが、運動好きが低い。特性に触れたい。
- ・単元計画では毎時間のねらいと評価をきっちりと決めている。
- ・1時間で意味ある活動を。
- ・課題提示の仕方を工夫（生徒に言わせる等）
- ・色々な生徒に配慮があった。
- ・雰囲気を作った先生が素晴らしい。
- ・全体でほめた方が良い&個人でほめた方が良い。
- ・ボーリングを表現した生徒たち「今日は速さがテーマ、ゆっくりと速く」
- ・楽しい体育言葉の意味を間違えないように。
  - ①動く
  - ②伸びる
  - ③分かる
  - ④集う
  - ⑤作る工夫する
  - ⑥認められる
- ・小学校で表現を少しでも。
- ・大切なことは繰り返し話す。
- ・先生がどの班にも関わり、子どもが楽しそうでよかった。先生が楽しいと子どもも楽しい。
- ・ウォーミングアップで汗をかくくらいが良い。スキップは笑顔になる。
- ・へそがねじれるダンス。人間関係のくずしや人の位置関係など変化をさせることが良い。



# さいたま市立慈恩寺中学校

## 単 元 名

- ・「陸上競技」(長距離走)

## 授 業 者

若 林 勇 輝  
松 井 啓 祐  
前 崎 彩

## 研究協議会

- ・第1分科会 「学習意欲の向上と学習習慣の確立を目指した学習指導の工夫」
- ・第2分科会 「生徒の豊かな学びを支える学習資料や教材・教具の工夫」

## 司 会 者

- ・第1分科会 佐 藤 拓 哉 (さいたま市立七里中学校)
- ・第2分科会 松 吉 杏 佳 (さいたま市立春里中学校)

## 指導・助言者

埼玉県教育局県立学校部保健体育課指導主事

金 杉 博 美

さいたま市教育委員会学校教育部指導1課主任指導主事

下 舘 文 雄

《活動の様子》



## さいたま市立慈恩寺中学校

単 元 名	「陸上競技」(長距離走)
指 導 者	若 林 勇 輝・松 井 啓 祐・前 崎 彩
単 元 目 標	<p>○自己の課題に積極的に取り組むとともに、ルールやマナーを守り、分担した役割を果たそうとするなど、健康・安全に気を配ることができるようにする。 【関心・意欲・態度】</p> <p>○自己の課題に応じた練習方法を見つけることができるようにする。 【思考・判断】</p> <p>○課題練習を通して、自分に合ったピッチ、ストライドを身に付け、ペースを守りながら、一定の距離を走り通すことができるようにする。 【技能】</p> <p>○長距離走の特性や走り方を知り、運動観察の方法を理解するとともに、関連して高まる体力などを理解できるようにする。 【知識・理解】</p>
本時の目標	○自己の課題を発見し、適切な練習方法に取り組んでいる。 【思考・判断】
授 業 内 容	<p>～ブリーフィング～</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 集合、健康観察、挨拶</li> <li>2 前時の振り返り</li> <li>3 本時のねらいと学習内容の確認</li> <li>4 準備運動、補助運動(班ごと)、ランニング</li> <li>5 選択練習             <ul style="list-style-type: none"> <li>〈選択A ピッチ走法でのペース走〉</li> <li>〈選択B ストライド走法でのペース走〉</li> </ul> </li> <li>6 用具の片付け、整理運動、</li> <li>7 学習の振り返りとまとめ</li> <li>8 次時の予告</li> <li>9 挨拶</li> </ol> <p>～ブリーフィング～</p>

## 第43回 中学校体育授業研究会

### 第1分科会

#### 「学習意欲の向上と学習習慣の確立を目指した学習指導の工夫」

##### 1 授業について

- ・長距離走に苦手意識を持っている生徒が多い現状をふまえて、生徒が前向きに取り組める授業作りに主眼を置いた。
- ・自分に合った走り方を理解させる手段として、ピッチ走法とストライド走法に取り組み、個々で選択ができるようにした。また、練習の場を2つに分けることで、共通の目的を持った集団で課題解決学習に取り組めるようにした。
- ・タブレットを活用することで、振り返りの時間に、ペア同士でより具体的なアドバイスができるように工夫をした。
- ・歩数やリズムを意識させたことで、ペアの生徒が励ましの声に加えて、走り方についての具体的なアドバイスができるようになった。
- ・今回の授業で重視したのは、「自分のリズムに合ったピッチやストライドで走るペース走」であったため、呼吸法や姿勢については全体の場で大きく取り上げなかった。
- ・20mの測定区間の歩数でストライドの変化を観察できるようにしたが、20mが適正な距離かどうかは疑問が残った。
- ・学習カードは毎時間ごとに配布し、1冊の本を作っていくような形にした。

##### 2 研究協議

- ・生徒同士の声かけが非常に多く、一人ひとりが意欲的に走っていた。
- ・タブレットを活用し、動画をチェックすることで、視覚的な情報も入り、より具体的な振り返りができていた。
- ・運動が苦手な生徒でも、得意な生徒に対してアドバイスをすることができていた。
- ・タブレットについては、使用する生徒と使用しない生徒がいたため、振り返りの内容について差が出てしまうのではないか。

##### 3 指導・講評

- ・小学校では、「長距離走」はないため、中学校1年生で体験したことが長距離走の好き嫌いに大きく関わってくる。今回の授業では、指導観に「走る楽しさを味わわせたい」という表現があり、とてもよかった。
- ・1年生の内容を、2年生の内容に向けてどのようにつなげていくのかまでよく考えて授業作りをする必要がある。
- ・今回の授業では、先生の生徒への声かけが前向きな表現に徹してとてもよかった。
- ・記録の向上を目指すために、技能を身につける時間にするのか、探求的な活動にするのか、単元計画に沿ってねらいを明確にして授業をすることで、学びの多い授業が実践できる。

### 第2分科会

#### 「生徒の豊かな学びを支える学習資料や教材・教具の工夫」

##### 1 授業について

- ・単元の前半で歩数やBPM（テンポ数）を用いて、ピッチ走法やストライド走法を身に付けさせたことで、生徒一人ひとりが自分に合ったピッチやストライドを見つけることができ、走り方に変容が見られた。
- ・ICTを活用したことで、自分の走りを客観的に見ることができ、自分のフォームに関心を持つ生徒が増えた。
- ・学習資料やICTを活用したことで、生徒同士がお互いの課題を明確にすることができた。
- ・運動が苦手な生徒も意欲的に取り組むことができていた。

##### 2 研究協議

- ・カラーコーン等の視覚的な工夫や声掛けの掲示物があったことで、生徒が積極的に動いていた、アドバイス交換が活発に行われていたりした。
- ・ピッチとストライドで場を分けて活動していたが、それぞれ活気があってよかった。
- ・アドバイスの時間に撮影したペアの走り方を見ながら、ペアの課題に合った適切なアドバイスをすることができていた。
- ・運動量が少なかったため、伴走をしてペースを保たせたり、アドバイスの時間を少なくしたりしてもよかった。
- ・歩数の測定が2回だったので、トラックに10mごとにコーンを置いて、もうすこし細かく歩数を計算してもよかった。
- ・タブレットを撮る位置が遠かったので、もう少し近い場所で撮影し、ペアが走っている時にもう少し応援できるとよい。

##### 3 指導・講評

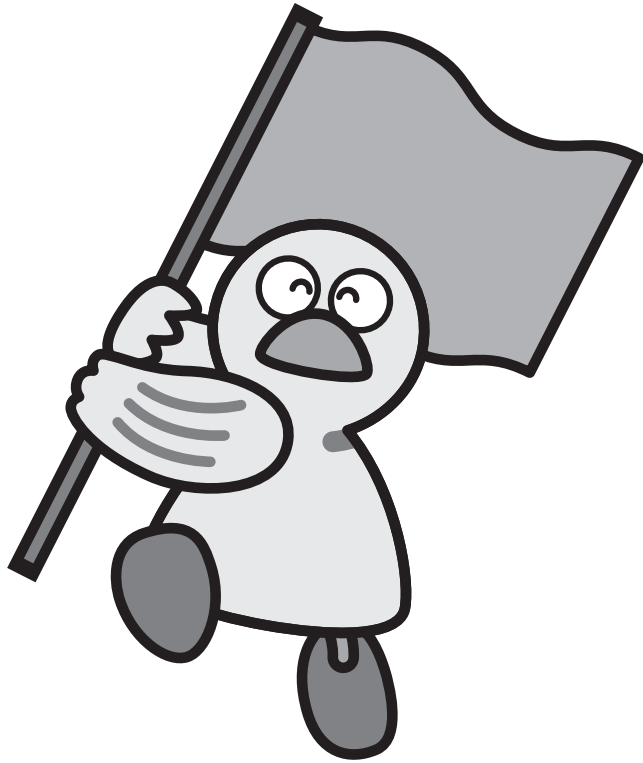
- ・長距離走はいつでも、どこでも、誰でもできるので、生涯スポーツにつながる単元である。
- ・部活動等の中で罰として走らせることはしていないか。走る＝罰という認識になってしまったら、子どもたちは走ることが嫌いになってしまう。好きにさせるための指導をしてほしい。
- ・体育の活動中は、自分の姿を客観的に見ることは難しい。その際にタブレットがあれば、自分で自分の姿を見ることができる。ICTを使うことが目的ではなく、ペースを守って走ることが目的であり、その目的のためにICTを有効的に活用してほしい。
- ・音楽は、ねらいや目的を明確にして使用してほしい。
- ・運動量としては、学習指導要領解説に示されている1000m～3000m程度を目安にすればよい。
- ・明確な目的がないのであれば、男女共習で行うことが望ましい。新学習指導要領実施に向け、準備を進めてほしい。





# 学習指導案

球 技 (バスケットボール)



## 保健体育科学習指導案

平成30年10月18日(木) 第5校時 体育館

第3学年1・2・3組 男子11名 女子20名

授業者 本庄市立本庄南中学校 教諭 柳田 育美

主幹教諭 阿久津 広真

### 1 単元名 「球技」(ゴール型・バスケットボール)

#### 2 運動の特性

##### (1) 一般的特性

バスケットボールは、相対する2チームが、パスやドリブルなどの基本的技能を用いて、決められた時間内に相互に相手のゴールへシュートして得点を競うスポーツである。ボール操作をしながら仲間との連携が必要になることから高い判断力が求められる。また、切り替えの速い攻守が連続的に行われるため、運動量が非常に高いスポーツである。1つのコートの中で、2チームが攻防を繰り返すため、身体接触が多く、フェアプレイを大切に安全に留意する姿勢を養うことができる。

##### (2) 生徒からみた特性

バスケットボールの楽しさや喜びを感じる要因	バスケットボールを遠ざける要因
<input type="radio"/> シュートが決まったとき <input type="radio"/> 仲間と連携したプレーができたとき <input type="radio"/> 作戦の中で自分の役割が果たせたとき	<input checked="" type="radio"/> 接触が多く怖いとき <input checked="" type="radio"/> ボール操作が難しいとき

#### 3 生徒の実態

##### (1) 技能

基本的な個人技能を身に付けている生徒は多いが、試合中にそれらの技能を組み合わせたり、状況に応じた技能を選択することが苦手な生徒がいる。また、空間を使う、作り出す動きを行うことに課題がある。

##### (2) 態度

全体的に学習規律を守り、前向きに授業に取り組む生徒が多い。チームでの話し合い活動や課題解決にも積極的に参加することができる。

##### (3) 知識、思考・判断

自己やチームの課題を見付け、提示された課題解決学習の中から課題に合ったものを選択することができる。

##### (4) 体育に関する意識調査より

###### ①保健体育の授業は好きですか？

好き	18人	どちらかといえば好き	11人	どちらかといえば嫌い	1人	嫌い	1人
----	-----	------------	-----	------------	----	----	----

###### ②バスケットボールを選んだ理由は何ですか？

好きだから、楽しいから、1年生の授業が楽しかったから、部活動でやっていたから
--

###### ③どのようなときに楽しいと感じますか？

シュートが決まった時、仲間と喜び合えた時、パスでつないでシュートまで行けた時
--

###### ④バスケットボールの授業で身につけたい技術は何ですか？

正確なシュート、色々なパスの仕方、ドリブル、瞬時の判断力、空間への動き方
--------------------------------------

#### 4 教師の指導観

##### (1) 技能

1年生で身に付けた基本的技能を仲間と連携した動きの中で確実にこなせるようにしたい。ただ、2年生では履修していないため、前半では個人技能の確認・定着を図り、後半では空間を使う・作り出すことを意識した動きを学習し、仲間と連携して攻防を展開できるようにしたい。そのために、オフENSEの数的有利なゲーム内容を中心に学習を進めていき、最終的には実際のルールに近づけたゲームを行っていく。

##### (2) 態度

学習規律を徹底し、生徒一人一人が自ら自主的に取り組めるようにしたい。また、健康・安全に留意し、フェアなプレイを大切にするなど、ルールやマナーを守ろうとする態度を身に付けさせたい。

##### (3) 知識、思考・判断

学習資料やICTを活用し、自己やチームの課題を見つけ課題に合った練習方法を仲間と話し合い、選択できるようにさせたい。相手チームや自チームに応じた作戦を仲間と話し合い、ゲームができるようにする。

## 5 単元の目標

- (1) 自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にし、自己の責任を果たそうとし、作戦などについての話し合いに貢献し、健康・安全を確保することができるようにする。 【関心・意欲・態度】
- (2) 自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。 【思考・判断】
- (3) 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームが展開できるようにする。 【技能】
- (4) 技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解できるようにする。 【知識・理解】

## 6 単元及び学習活動に即した評価規準

	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能	運動についての知識・理解
単元の評価規準	バスケットボールの楽しさや喜びを味わうことができるよう、フェアなプレイを大切にしようとする事、自己の責任を果たそうとすること、作戦などについての話し合いに貢献しようとする事などや、健康・安全を確保して、学習に自主的に取り組もうとしている。	生涯にわたって球技を豊かに実践するための自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。	バスケットボールの特性に応じて、ゲームを展開するための作戦に応じた技能や仲間と連携した動きを身に付けている。	技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法、試合の行い方を理解している。
学習活動に即した評価規準	①仲間と協力して自主的に学習に取り組もうとしている。 ②ルールを守り、公正な態度で活動しようとしている。 ③自己の役割を責任を持って果たそうとしている。 ④チームの作戦などについての話し合いに貢献しようとしている。	①仲間へ課題や練習方法の選択について指摘している。 ②提供された作戦や戦術から自己のチームに合ったものを選んでいく。 ③チームの課題を明確にし、課題解決に向けた練習方法を見付けている。	①動きの中でのパスの技能を高めることができる。 ②動きの中でのシュートの技能を高めることができる。 ③仲間と連携してゴール前の空間を使ったり、作り出したりしてゲームができる。 ④作戦を生かした攻防を展開してゲームができる。	① 技術の名称や行い方について学習した具体例を言ったり、書き出したりしている。 ② 試合の行い方について、学習した具体例を挙げている。 ③ 仲間同士で運動観察を行う時のポイントを言ったり、書き出したりしている。

## 7 単元の計画

### (1) 領域の取り上げ

学年／運動	サッカー	バスケットボール	ソフトボール	バレーボール	ハンドボール	ソフトテニス
第1学年	8時間	8時間	8時間	8時間	／	／
第2学年	／	／	8時間	8時間	8時間	8時間
第3学年	14時間	14時間	14時間	14時間	14時間	14時間

※第1・2学年は、2学年までですべての型を必修。

※第3学年においては「サッカー」、「バスケットボール」、「ハンドボール」から選択。  
「ソフトボール」、「バレーボール」、「ソフトテニス」から選択。

### (2) 運動種目

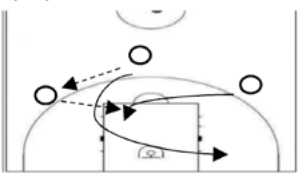
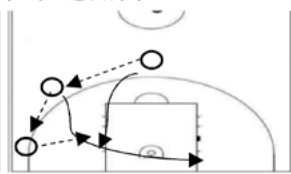
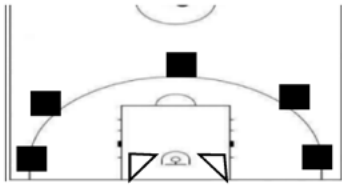
学年	教材	目指す動き
1	バスケットボール	基本的なボール操作と空間に走り込む動きによって、マークをかわしてゴール前での攻防を展開できるようにする。
3	バスケットボール	安定したボール操作や仲間と連携した動きによってゴール前に空間を作り出してゴール前へと侵入する攻防を中心に作戦を立ててゲームを展開できるようにする。

指導と評価の計画 (時間扱い)

ねらい	1 ・パスケツトの習し。 ・特性や健康学や安任の習や	2 ・仲間と協力的に自主的に取り組もう。 ・仲間の協力	3 ・安定した操作を高めよう。 ・色々のパスや味作す。	4 ・動きのシチュエーションを上げよう。 ・シチュエーションの動き	5 ・仲間や法にアスルを練習して選んでいよう。 ・仲間の見方選方	6 ・提示された戦術や戦術に戦術を選ぼう。 ・戦術の戦術	7 ・チームの作戦に貢献しよう。 ・話し合い	8 ・仲間と連携して空をつりよう。 ・空をつり	9 ・課題を明確に練習しよう。 ・課題を明確に練習しよう。	10 ・仲間と試合のポイントを付けよう。 ・試合のポイント	11 ・作戦を攻撃し、守る展開しよう。 ・試合の展開	12 ・自己の役割を任せてよう。 ・自己の役割	13 ・試合の行いについて考えよう。 ・試合の行い	14 ・ルールを守り、公正な態度でよう。 ・ルールの理解、公正な態度	
指導内容	・特性や健康学や安任の習や	・仲間の協力	・色々のパスや味作す。	・シチュエーションの動き	・仲間の見方選方	・戦術の戦術	・話し合い	・空をつり	・課題を明確に練習しよう。	・試合のポイント	・試合の展開	・自己の役割	・試合の行い	・ルールの理解、公正な態度	
学習過程	3 単元の学習とねらいの確認 4 特性や約束事や学習の約束事 5 学習の準備や役割の決定 6 本時の振り返りとまとめ 7 整理運動・健康観察 8 挨拶・片づけ	3 本時のねらいの確認 4 感覚の学習 5 感覚の実践 6 整理・健康観察 7 本時の振り返りとまとめ 8 挨拶・片づけ	3 本時のねらいの確認 4 感覚の学習 5 個人的能力の学習 6 簡易ゲーム(ハーフコート)	3 本時のねらいの確認 4 感覚の学習 5 個人的能力の学習 6 簡易ゲーム(ハーフコート)	3 本時のねらいの確認 4 感覚の学習 5 個人的能力の学習 6 簡易ゲーム(ハーフコート)	3 本時のねらいの確認 4 感覚の学習 5 個人的能力の学習 6 簡易ゲーム(ハーフコート)	3 本時のねらいの確認 4 感覚の学習 5 個人的能力の学習 6 簡易ゲーム(ハーフコート)	3 本時のねらいの確認 4 感覚の学習 5 個人的能力の学習 6 簡易ゲーム(ハーフコート)	3 本時のねらいの確認 4 感覚の学習 5 個人的能力の学習 6 簡易ゲーム(ハーフコート)	3 本時のねらいの確認 4 感覚の学習 5 個人的能力の学習 6 簡易ゲーム(ハーフコート)	3 本時のねらいの確認 4 感覚の学習 5 個人的能力の学習 6 簡易ゲーム(ハーフコート)	3 本時のねらいの確認 4 感覚の学習 5 個人的能力の学習 6 簡易ゲーム(ハーフコート)	3 本時のねらいの確認 4 感覚の学習 5 個人的能力の学習 6 簡易ゲーム(ハーフコート)	3 本時のねらいの確認 4 感覚の学習 5 個人的能力の学習 6 簡易ゲーム(ハーフコート)	3 本時のねらいの確認 4 感覚の学習 5 個人的能力の学習 6 簡易ゲーム(ハーフコート)
学習過程	0 用具の準備 1 集合・整列・挨拶・挨拶・健康観察 2 集団走・南中体操・補強運動 3 感覚つくりの運動 4 本時のねらいの確認 5 個人的能力の学習 6 ゲームⅠ オールドコート ・3対3 (ルーズボールから) ・シュートが入ったら交代	3 本時のねらいの確認 4 感覚の学習 5 個人的能力の学習 6 簡易ゲーム(ハーフコート)	3 本時のねらいの確認 4 感覚の学習 5 個人的能力の学習 6 簡易ゲーム(ハーフコート)	3 本時のねらいの確認 4 感覚の学習 5 個人的能力の学習 6 簡易ゲーム(ハーフコート)	3 本時のねらいの確認 4 感覚の学習 5 個人的能力の学習 6 簡易ゲーム(ハーフコート)	3 本時のねらいの確認 4 感覚の学習 5 個人的能力の学習 6 簡易ゲーム(ハーフコート)	3 本時のねらいの確認 4 感覚の学習 5 個人的能力の学習 6 簡易ゲーム(ハーフコート)	3 本時のねらいの確認 4 感覚の学習 5 個人的能力の学習 6 簡易ゲーム(ハーフコート)	3 本時のねらいの確認 4 感覚の学習 5 個人的能力の学習 6 簡易ゲーム(ハーフコート)	3 本時のねらいの確認 4 感覚の学習 5 個人的能力の学習 6 簡易ゲーム(ハーフコート)	3 本時のねらいの確認 4 感覚の学習 5 個人的能力の学習 6 簡易ゲーム(ハーフコート)	3 本時のねらいの確認 4 感覚の学習 5 個人的能力の学習 6 簡易ゲーム(ハーフコート)	3 本時のねらいの確認 4 感覚の学習 5 個人的能力の学習 6 簡易ゲーム(ハーフコート)	3 本時のねらいの確認 4 感覚の学習 5 個人的能力の学習 6 簡易ゲーム(ハーフコート)	3 本時のねらいの確認 4 感覚の学習 5 個人的能力の学習 6 簡易ゲーム(ハーフコート)

8 本時の学習と指導（8 / 14時）

- (1) 本時のねらい 仲間と連携してゴール前の空間を使ったり、作り出したりしてゲームができる。 **【技能】**
- (2) 準備 バasketボール、デジタルタイマー、ゼッケン、マーカー、学習カード、タブレット、プロジェクター、スクリーン
- (3) 展開

段階	学習内容・活動	指導上の留意点（○指導 ◆評価規準）
導入 15分	1 集合・整列・挨拶・健康観察を行う。 2 準備運動を行う。 (1) 集団走 (2) 南中体操・補強運動 3 感覚づくりの運動 (1) ゴール下シュート（右） (2) ゴール下シュート（左） (3) 走りこんでシュート (4) パス&ラン	○大きな声で挨拶をさせる。 ○大きな声と動きで準備運動を行わせ、体を十分にほぐさせる。 ○素早く移動をさせ、準備を行わせる。 ○それぞれのポイントを意識させ、仲間と協力し、声を掛け合いながら行わせる。 ○巡回しながら声をかけ、正確に行わせる。 ○この後の学習に必要な練習であることを意識させる。
展開 27分	4 本時のねらいの確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                         仲間と連携してゴール前の空間を使ったり、作り出したりしてゲームをしよう。                     </div> ・試合の動画を見て空間を使ったり、作り出す動きのイメージをつかむ。（見通し） 5 空間を意識した動きの確認（3人で） (1) カットインプレー ・連続ボールサイドカット (2) 3分間チームで確認 ・応用（0度の×も使った動き） (1)  (2) 応用例  6 簡易ゲーム ○ハーフコート3対3 ・オフェンスは■でパスを受けることを意識して動く。その動きの中で△でパスをもらい、シュートを狙う。 <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 20px;">                         &lt;ポイント&gt;                          ①パスをしたら中に動く！                          ②もらえなかったら×に動く                     </div> </div> ・ディフェンスはボールマンには必ずつく ・ドリブルなし （シュートに行くワンドリブルは可） ・3分×2－2分作戦－3分×2 （1セットずつで攻守交代）	○本時のねらい、流れを理解させる。 ○空間を使ったり、作り出す動きとはどんな動きなのかを実際に見てイメージを持たせる。 ○正確な動きができるようにさせる。 ○タイミングよく動くことを意識させる。 ○一連の流れでできるようにする。 ○気づいたことなどお互いに声をかけ合わせる。 ○確認した動きを意識して行わせる。 ○ディフェンスのすきをついてゴール下でパスをもらわせる。 ○チーム内でコミュニケーションを取り、空間を気付かせる。 ○シュートが決まったり、良いプレーがあった時は、賞賛する声をかけたり良い雰囲気を作らせる。 ○安全に留意して行わせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                         ◆仲間と連携してゴール前の空間を使ったり、作り出したりしてゲームができる。                     </div> <div style="border: 2px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                         努力を要すると判断される状況（C）の生徒への指導の手立て                          △空間を意識した動きを確認する。それでもつまづくようであれば、さらに単純化した動きを指導する。                          「十分満足できると判断される状況（A）」の生徒の具体的な姿                          ◎自分が空間を作り出すことに重点を置き、仲間がシュートを打てるように意図的に動くことができる。                     </div>
整理 8分	7 整理運動・健康観察を行う。 8 学習のまとめと振り返りを行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                         まとめ：空間を使ったり、作り出すことでシュートの精度が上がる。                     </div> 9 挨拶・片づけをする。	○大きな声と動きで使った部分を十分にほぐす。 ○本時のねらいに正対したまとめと振り返りをさせる。 ○数名の生徒に発表させる。 ○明るく元気に挨拶をさせる。 ○全員で協力して片づけを行わせる。



# バスケットボール学習カード

3年 組 番 氏名 \_\_\_\_\_

3年生なので

作戦に応じたボール操作で  
仲間と連携してゲームを展開できるようにしよう

下の内容ができるようになろう

関心・意欲・態度	思考・判断	技能	知識・理解
① 仲間と協力して自主的に学習に取り組もうとしている。	① 仲間へ課題や練習方法の選択について指摘している。	① 動きの中でのパスの技能を高めることができる。	① 技術の名称や行い方について学習した具体例を言ったり、書き出したりしている。
② ルールを守り、公正な態度で活動しようとしている。	② 提供された作戦や戦術から自己のチームに合ったものを選んでいる。	② 動きの中でのシュートの技能を高めることができる。	② 試合の行い方について、学習した具体例を挙げている。
③ 自己の役割を責任を持って果たそうとしている。	③ チームの課題を明確にし、課題解決に向けた練習方法を見つけている。	③ 仲間と連携して空間を使ったり、作り出したりしてゲームができる。	③ 仲間同士で運動観察を行う時のポイントを言ったり、書き出したりしている。
④ チームの作戦などについての話し合いに貢献しようとしている。		④ 作戦を生かした攻防を展開してゲームができる。	

個人の目標



## バスケット自己評価シート

日付	本時のねらい		項目	評価	本時のまとめ・振り返り
/	1	バスケットボール学習の見直しをもとう	関	A・B・C	
			思	A・B・C	
			技	A・B・C	
			知	A・B・C	
日付	本時のねらい		項目	評価	本時のまとめ・振り返り
/	2	仲間と協力して自主的に学習に取り組もう	関	A・B・C	
			思	A・B・C	
			技	A・B・C	
			知	A・B・C	
日付	本時のねらい		項目	評価	本時のまとめ・振り返り
/	3	安定したボール操作をしてパスの技能を高めよう	関	A・B・C	
			思	A・B・C	
			技	A・B・C	
			知	A・B・C	
日付	本時のねらい		項目	評価	本時のまとめ・振り返り
/	4	動きの中でのシュートの精度を上げよう	関	A・B・C	
			思	A・B・C	
			技	A・B・C	
			知	A・B・C	
日付	本時のねらい		項目	評価	本時のまとめ・振り返り
/	5	仲間へ課題や練習方法の選択についてアドバイスをしよう	関	A・B・C	
			思	A・B・C	
			技	A・B・C	
			知	A・B・C	
日付	本時のねらい		項目	評価	本時のまとめ・振り返り
/	6	提示された作戦や戦術からチームに合った作戦や戦術を選ぼう	関	A・B・C	
			思	A・B・C	
			技	A・B・C	
			知	A・B・C	
日付	本時のねらい		項目	評価	本時のまとめ・振り返り
/	7	チームの作戦などについての話し合いに貢献しよう	関	A・B・C	
			思	A・B・C	
			技	A・B・C	
			知	A・B・C	

関 ルールやマナーを守り、公平な態度で活動することができた  
 思 課題解決に向け、運動の取り組み方を工夫できた  
 技 安定したボール操作を行い、空間を意識した動きをすることができた  
 知 技術の名称や動きのポイントについて理解することができた

A・・・大変良くできた B・・・良くできた C・・・あまりできなかった

## バスケット自己評価シート

日付	本時のねらい		項目	評価	本時のまとめ・振り返り
/	8	仲間と連携して空間を使ったり、作り出したりしてゲームをしよう	関	A・B・C	
			思	A・B・C	
			技	A・B・C	
			知	A・B・C	
日付	本時のねらい		項目	評価	本時のまとめ・振り返り
/	9	チームの課題を明確にし、課題解決に向けた練習方法を見つけよう	関	A・B・C	
			思	A・B・C	
			技	A・B・C	
			知	A・B・C	
日付	本時のねらい		項目	評価	本時のまとめ・振り返り
/	10	仲間同士で見せ合い、ポイントを見付けよう	関	A・B・C	
			思	A・B・C	
			技	A・B・C	
			知	A・B・C	
日付	本時のねらい		項目	評価	本時のまとめ・振り返り
/	11	作戦を生かした攻防を展開してゲームをしよう	関	A・B・C	
			思	A・B・C	
			技	A・B・C	
			知	A・B・C	
日付	本時のねらい		項目	評価	本時のまとめ・振り返り
/	12	自己の役割を責任を持って果たそう	関	A・B・C	
			思	A・B・C	
			技	A・B・C	
			知	A・B・C	
日付	本時のねらい		項目	評価	本時のまとめ・振り返り
/	13	試合の行い方について考えよう	関	A・B・C	
			思	A・B・C	
			技	A・B・C	
			知	A・B・C	
日付	本時のねらい		項目	評価	本時のまとめ・振り返り
/	14	ルールを守り、公正な態度で活動しよう	関	A・B・C	
			思	A・B・C	
			技	A・B・C	
			知	A・B・C	

バスケットボールの授業を終えての総括（どんな事が身に付き、どんな点が反省点か）

感覚つくりの運動

## ～ハンドリング～

<上級>

- ① 8の字
  - ② 持ち替え前後キヤッチ
  - ③ 持ち替え交互キヤッチ
  - ④ 片手肩越しキヤッチ
  - ⑤ 背面キヤッチ・リバース
- 両手ドリブル

↓

トリプルシュット (ゴール!)

感覚つくりの運動

## ～ハンドリング～

<中級>

- ① ボール回し  
(頭→胸→ヒザ→胸→頭)
  - ② 8の字
  - ③ 持ち替え前後キヤッチ
  - ④ 持ち替え交互キヤッチ
  - ⑤ 1回転キヤッチ
- 両手ドリブル

↓

トリプルシュット (ゴール!)

感覚つくりの運動

## ～ハンドリング～

<初級>

- ① ボール回し (頭)
  - ② ボール回し (胴体)
  - ③ ボール回し (ヒザ)
  - ④ たて足
  - ⑤ 8の字
- 両手ワンドリブル

↓

トリプルシュット (ゴール!)

## 編集にあたり

先ず以て、授業を提供していただきました各学校の校長先生をはじめとする先生方、懇切丁寧な御指導をいただきました県教育局県立学校部保健体育課及びさいたま市教育委員会学校教育部指導1課並びに各教育事務所、県立総合教育センター、関係の各市町村教育委員会の先生方に心より感謝申し上げます。

今年度で第43回になります中学校体育授業研究会は、全ての会場で予定どおり開催され、大きな成果をあげて終了することができました。公開された授業については、各地区の研究常任委員が全ての学習指導案及び学習資料を保管しております。また、県中学校体育連盟事務局にもそれらの資料等閲覧できるよう保管しておりますので、是非御活用ください。

紙面の関係から、掲載する指導案を限らせていただきましたが、この「第43回中学校体育授業研究会」のまとめを十分に御活用いただき、本県中学校体育の課題である「体力向上」の推進にさらに努めていただきたいと思います。

保健体育科の指導は「明るく豊かな生活を営む態度を育てる」ことを目指し、心と体をより一体としてとらえ、体育と保健を一層関連させて指導することが重要であります。今後も学習指導要領の趣旨を踏まえながら、「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の育成」、「健康の保持増進のための実践力の育成」及び「体力の向上」について相互に関連させ、生徒のさらなる意欲向上のために研究を進めていただき、本誌がその一助としていただけたら幸いです。

----- 問い合わせ先 -----

### 埼玉県中学校体育連盟 事務局

〒330-0062

さいたま市浦和区仲町3-5-1

埼玉県県民健康センター内

T E L 048-822-8876

F A X 048-822-0281

E-mail [sai-chuutairen.go-go@leaf.ocn.ne.jp](mailto:sai-chuutairen.go-go@leaf.ocn.ne.jp)